

令和6年度

教職課程

自己点検・評価報告書

京都女子大学

令和7年6月

## 京都女子大学 教職課程認定学部・学科（免許校種・免許教科）一覧

### 【令和5年度以前入学生】

- ・文学部（国文学科（中・高 国語）、英文学科（中・高 外国語「英語」）、史学科（中 社会、高 地歴））
- ・発達教育学部（教育学科教育学専攻（幼、小、特支）、教育学科養護・福祉教育学専攻（養護、中・高 保健）、教育学科音楽教育学専攻（中・高 音楽）、児童学科（幼））
- ・家政学部（食物栄養学科（栄養、中・高 家庭）、生活造形学科（中・高 家庭））
- ・現代社会学部（現代社会学科（中 社会、高 公民））
- ・法学部（法学科（中 社会、高 公民））
- ・データサイエンス学部（データサイエンス学科（中・高 数学、高 情報））

### 【令和6年度以降入学生】

- ・文学部（国文学科（中・高 国語）、英語文化コミュニケーション学科（中・高 外国語「英語」）、史学科（中 社会、高 地歴））
- ・発達教育学部（教育学科（幼、小、特支、中・高 音楽））
- ・心理共生学部（心理共生学科（養護、中・高 保健））
- ・家政学部（食物栄養学科（栄養、中・高 家庭）、生活造形学科（中・高 家庭））
- ・現代社会学部（現代社会学科（中 社会、高 公民））
- ・法学部（法学科（中 社会、高 公民））
- ・データサイエンス学部（データサイエンス学科（中・高 数学、高 情報））

## 大学としての全体評価

京都女子大学は、2020年に創基100年を迎えて以降、現在、新たな100年に向けて歩んでいるところです。本学の礎である京都女子高等専門学校は、甲斐和里子、大谷籌子、九條武子、さらに仏教婦人会員たちの女子高等教育への熱意と信念を原動力に設立され、昭和24年（1949年）に、文学部と家政学部からなる女子大学として開学しました。その後、社会の変化に伴い、日本社会を支える女性人材養成を目指して、現代社会学部、発達教育学部、そして女子大学としては唯一の法学部、さらにはデータサイエンス学部も設置し、国内有数の女子総合大学として発展し、今日に至ります。

親鸞聖人の頭かにされた仏教精神にもとづく人間教育を建学の精神としている本学は、「仏教精神を基調として徳操を養い、教育基本法の精神に基づき、学校教育法第83条の趣旨による大学教育を施し、温雅高潔な女子を育成すること」とする設置理念の実現に努め、時代や社会がいかに変化しようとも、人間としての真の姿を求めていく敬虔な姿勢の醸成をその根底に置き、いのちを大切にし、人々の福祉に貢献しうる人材を育成することを目指してきました。このような“心の教育”を基礎として、本学の教職課程は、「心豊かでたくましく生きていくことができる子どもを育成する資質・能力と、他者との相互理解に努め、社会と協働して問題解決にあたるグローバルな視点を身につけた教員」を養成し、高い志と情熱・行動力を持つ教員志望者を育成してきました。その意義は社会貢献という観点からも大きいものと認識しています。

また、こうした教職課程の自己点検・評価も本学では継続して実施され、教職課程の改善と更なる充実を図ってきました。元々、本学の教員養成の歴史は、大正7年（1918年）に京都高等女学校が尋常小学校の正教員免許状の授与機関となったことにまで遡ります。以後、100年以上にわたる教員養成の実績を残し、京都を中心とする近畿圏のみならず、全国に多数の教員を輩出してきました。近年では、教職は非常に厳しい状況にあると言われてはいますが、次世代の子どもたちを育てる重要な役割は教師（教員）に対して一層求められており、教職の価値は益々高まっているともいえます。そうした情勢の下で、京都女子大学は、教職をめざす学生の目線で対応することを念頭に置きながら、日々さまざまな取り組みを実施してきました。

以上の動向や実績を踏まえて、今回実施した令和6（2024）年度の自己点検・評価では、本学の教職課程に関する自己点検・評価体制の抜本的な見直しを図り、改めて学科ごとに教職課程の実施・運営の観点から自己点検・評価を行うことを通して、これまでの取り組みの意義と課題に関して整理し検討しました。本報告書はその成果となります。

今回の点検・評価を踏まえ、長らく保育者・教員養成に携わってきた実績を有し、多くの優秀な保育者や教師（教員）を養成して世に輩出してきた伝統と歴史を受け継ぎながら、今後も新たな時代に目を向けた京都女子大学ならではの教職課程運営の実現を目指したいと考えています。

京都女子大学

学長 竹安 栄子

## 目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検・評価	5
	基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	5
	基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	15
	基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	24
III	総合評価（全体を通じた自己評価）	37
IV	「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス	38

## I 教職課程の現況及び特色

### 1 教職課程の現況

- (1) 大学名：京都女子大学
- (2) 学部名：文学部・発達教育学部・心理共生学部・家政学部・現代社会学部・法学部・データサイエンス学部
- (3) 所在地：京都府京都市東山区今熊野北日吉町 35
- (4) 教職課程の履修者数及び教員数
  - ① 教職課程の履修者数

令和6年度（令和6年5月1日現在）

学部	学科名	教科	免許種	教職課程履修者数				合計
				1年	2年	3年	4年	
文学部	国文学科	国語	中学1種	34	39	28	30	131
			高校1種	55	55	42	36	188
			小学校1種	0	1	1	1	3
	英文学科／英語文化コミュニケーション学科	英語	中学1種	18	15	21	11	65
			高校1種	19	15	22	14	70
			小学校1種	2	1	2	1	6
	史学科	社会	中学1種	25	28	26	22	101
			高校1種（地歴）	39	29	44	33	145
			高校1種（公民）	10	13	9	16	48
			小学校1種	0	0	1	1	2
発達教育学部 (令和5年度以前入学生)	教育学科 (教育学専攻)		幼稚園1種	—	34	48	51	133
			小学校1種	—	99	101	105	305
			特別支援1種	—	67	59	49	175
		国語	中学1種	—	10	10	16	36
			高校1種	—	9	8	14	31
		英語	中学1種	—	7	2	7	16
			高校1種	—	4	2	6	12
		社会	中学1種	—	7	3	4	14
			高校1種（地歴）	—	6	1	2	9
			高校1種（公民）	—	1	2	2	5
	音楽	中学1種	—	3	3	1	7	
		高校1種	—	3	3	1	7	
	教育学科 (養護・福祉教育学専攻)	保健	中学1種	—	20	22	12	54
			高校1種	—	22	23	11	56
			養護1種	—	48	73	52	173
			小学校1種	—	0	1	0	1
	教育学科 (音楽教育学専攻)	音楽	中学1種	—	18	26	29	73
			高校1種	—	17	26	29	72
		国語	中学1種	—	3	0	1	4
			高校1種	—	2	0	1	3
英語		中学1種	—	1	0	1	2	
		高校1種	—	1	0	1	2	

			小学校 1 種	—	1	8	8	17	
			幼稚園 1 種	—	0	3	1	4	
		児童学科		幼稚園 1 種	—	111	120	103	334
				小学校 1 種	—	24	19	19	62
心理共生学部 (令和 6 年度以降入学生)	心理共生学科	保健	中学 1 種	19	—	—	—	19	
			高校 1 種	21	—	—	—	21	
			養護 1 種	71	—	—	—	71	
			小学校 1 種	0	—	—	—	0	
発達教育学部 (令和 6 年度以降入学生)	教育学科		幼稚園 1 種	89	—	—	—	89	
			小学校 1 種	91	—	—	—	91	
			特別支援 1 種	57	—	—	—	57	
		音楽	中学 1 種	14	—	—	—	14	
			高校 1 種	13	—	—	—	13	
		国語	中学 1 種	13	—	—	—	13	
			高校 1 種	7	—	—	—	7	
		英語	中学 1 種	5	—	—	—	5	
			高校 1 種	0	—	—	—	0	
		社会	中学 1 種	1	—	—	—	1	
高校 1 種 (地歴)	0		—	—	—	0			
高校 1 種 (公民)	1		—	—	—	1			
家政学部	食物栄養学科	家庭	中学 1 種	22	16	13	5	56	
			高校 1 種	25	19	15	8	67	
		栄養 1 種	37	31	35	28	131		
	生活造形学科	家庭	中学 1 種	9	4	7	6	26	
			高校 1 種	14	5	8	7	34	
現代社会学部	現代社会学科	社会	中学 1 種	9	10	13	7	39	
			高校 1 種 (公民)	10	15	11	10	46	
			高校 1 種 (地歴)	0	2	2	0	4	
		情報	高校 1 種	—	—	7	7	14	
			英語	中学 1 種	0	0	0	0	0
		高校 1 種		0	0	0	0	0	
法学部	法学科	社会	中学 1 種	1	2	6	3	12	
			高校 1 種 (公民)	1	6	6	3	16	
			高校 1 種 (地歴)	0	1	1	1	3	
			小学校 1 種	0	0	0	0	0	
データサイエンス学部	データサイエンス	数学	中学 1 種	13	8	—	—	21	
			高校 1 種	11	8	—	—	19	
		情報	高校 1 種	17	6	—	—	23	

② 教員数

	教授	准教授	講師	助教	その他
教員数	128※	48	15	6	718
備考：※教職支援センター特定教授 4 名含む。					

(5) 卒業者の現況

課程等 (通学・通信・大学院) 令和5年度卒業生 (令和6年5月1日現在)

学科	免許種	就職先状況											
		認定こども園		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		特別支援学校	
		正規	他	正規	他	正規	他	正規	他	正規	他	正規	他
国文								3		2	5		
英文								1	1	2			
史学								1	3	1			
教育				4		43	18					7	1
養護・福祉						10	6		2	1			
音楽						3	1	1	6		1		
児童		4		34	1	2							
心理													
食物		1						3		1			
生活造形								1		1			
現代社会										1			
法学													

※専任のみ「正規」でカウント。常勤・非常勤は他でカウント。

※養護教諭・栄養教諭は採用校種でカウント。

2 特色

本学の教員養成の歴史は、大正7(1918)年に京都女子高等女学校に尋常小学校の正教員免許状が授与されたことにはじまり、約100年の歴史を有し、以来、教員養成に対する実績を残し、京都を中心とする近畿圏のみならず、全国に多数の教員を輩出している。教員養成に対してこのような伝統と歴史を有する本学には、教員を目指して入学する学生も多い。

本学の設置理念である“心の教育”を基礎として「心豊かでたくましく生きていくことができる子どもを育成する資質・能力と他者との相互理解に努め、社会と協働して問題解決にあたるグローバルな視点を身につけた教員」の養成及び高い志と情熱・行動力を持つ教員志望者の育成を目指している。

新型コロナウイルス感染症の拡大以降、先行きの見えない社会に大人も子どもも不安を抱えている中、自己と他者を尊重し、人とつながり合うことの大切さが再認識されており、本学の設置理念である“心の教育”そのものが、これからの社会を担う子どもに必要とされるものであり、それを具現化できる教員養成が本学の教職課程の特色である。したがって、本学の果たすべき社会貢献という観点からもその意義は大きいと認識している。

教科に関する専門性の高い教員として複数免許取得が求められる中、本学では隣接学校種における複数免許の取得ができるようにカリキュラムを配置するとともに、各学科・専攻の教員養成に対する理念を明確にすることにより、各学科・専攻での学びを教育現場で生かすことのできる

教員養成に努めていることも特色である。

教員免許状取得のため、本学における教職課程指導の特色は下記に示すものである。

- (1) 「教職課程ハンドブック」による指導
- (2) 「教職履修カルテ」を用いた面談指導
- (3) 「教職支援センター」による個別指導、進路指導
- (4) 「教育実習オリエンテーション」による指導
- (5) 実習協力校への連絡・訪問・授業観察による教育実習巡回指導

上記 (1) ～ (4) の教職課程指導にもとづき、教職課程履修学生に対して、教職を志望するにあたっての心構え、教職課程履修中の過程の振り返り、個別に抱える不安や疑問などの解消、教育実習を行う際の心構え、注意事項、マナーを身に付ける等、学年ごとに段階を踏んで指導しており、学校インターンシップや採用試験対策等モチベーションの維持を目的として個別指導を踏まえた詳細な指導を実施している。また、(5) の教育実習巡回指導では、実習協力校・園からの現場の課題や実習生の実習状況についての情報交換をするとともに、実習生の不安や悩みを聞き取ったり授業・保育観察に基づくアドバイスを行ったりすることで、実習協力校・園と大学が協力して実習生の指導の充実に努めている。

## II 基準領域ごとの教職課程自己点検・評価

### 基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

#### 基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標を共有

①教職課程教育の目的・目標を、「卒業認定・学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針」等を踏まえて設定し、育成を目指す教師像とともに学生に周知している。

##### 〔現状〕

本学の教員養成の理念を基礎にして、各学科の養成課程における教職課程教育の目的・目標を設定して、教員の養成に取り組んでいる。また、教職課程教育の目的・目標を大学ホームページに公開し広く周知している。(資料 1-1-①-1、1-1-①-2)

教育学科では近隣教育委員会との連携によって教育現場体験を積極的に得られる方策を行い、大学 HP を通じて広く周知している。

##### 〔優れた取組〕

大学ポータルサイト内の「教職課程履修記録」に学生自らが教員になるための学びの成果や課題などを記し、教職課程面談（対面／オンライン）を通じて、教員と直接対話しながら、教職課程の振り返りを促し、教職への意識を高めている。その際、学生が理想とする教師像を確認し、教職課程教育の目的・目標に従って助言を行っている。

教育学科養護・福祉教育学専攻では、各専門分野で活躍している卒業生を招いて講演会等を開催し、卒業生・在学生の交流と学びを深める場を設けることで、目指す教師像を周知することを試みている（資料 1-1-①-3）。

##### 〔改善の方向性・課題〕

教職課程教育の目的・目標を 4 回生後期開講「教職実践演習」の授業においても分かりやすく説明する等、共有方法において更に工夫を行っていくことが考えられる。

また、食物栄養学科や生活造形学科では教職課程以外の資格課程を履修する学生が多いため、特に専門科目の履修が増える 2・3 回生時に教職課程の履修を継続するための支援が課題である。

令和 6 年度の学部改組により、養護・福祉教育学専攻は発達教育学部から心理共生学部に移り、発達教育学部は教育学専攻・音楽教育学専攻・児童学科が新たに 1 つの教育学科として再編された。そのため、次年度以降は、新学部体制における教職課程の学生指導及び学生の学びに関する情報共有の新たな体制の構築も必要となる。

#### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料 1-1-①-1：大学 HP『大学としての教員養成に対する理念』

<https://www.kyoto-wu.ac.jp/career/kyoshoku/kyouin/grd7hl0000007ohd-att/boogco000000jbe1.pdf>

- ・資料 1-1-①-2：大学 HP『各学科等の教員養成に対する理念』（2019～2023 年度入学生）

<https://www.kyoto-wu.ac.jp/career/kyoshoku/kyouin/grd7hl0000007ohd-att/grd7hl0000007opp.pdf>

『各学科等の教員養成に対する理念』（2024年度以降の入学生）

<https://www.kyoto-wu.ac.jp/career/kyoshoku/kyouin/grd7hl0000007ohd-att/boogco000000jbe2.pdf>

・資料 1-1-①-3：『京都女子大学生生活福祉学科紀要』第 17 号（2023）

<http://repo.kyoto-wu.ac.jp/dspace/handle/11173/3333>

②育成を目指す教師像の実現に向けて、関係教職員が教職課程の目的・目標を共有し、教職課程教育を計画的に実施している。

#### 〔現状〕

本学の教員養成の理念に基づき、「学び続ける教師」の育成という目的に沿った 4 年間の到達目標を設定・共有し、段階的な学びの提供と、授業や実習を通じて目標の実現に取り組んでいる。教育実習の巡回指導は、各学科のゼミ担当教員や学科教員が分担して実施しており、教職課程教育を計画的に実施する一環として、教職課程履修記録をポートフォリオに記載し、教員が確認とコメントを行うなど実習後の指導も行っている（資料 1-1-②-1）。

#### 〔優れた取組〕

上記に掲げた教員養成の目的や、4 年間の各段階における到達目標を設定し、関係教職員全体に共有できるように大学ホームページでも周知をしている。1 年次から講義・演習を段階的に展開し、4 年次では批判的・合理的に考える力を養うとともに、課題発見力や課題解決力を身につけ、表現能力・対話能力も高めながら、卒業研究まで一貫した学びを提供している。卒業後も生涯にわたって学び続ける能力の確立を目指し、教職課程における学習の目的・目標を各学科全教員が共有し、専門性を活かした授業設計を組み、その実現に取り組んでいる（資料 1-1-②-2、資料 1-1-②-3）。

児童学科や食物栄養学科では、ラボラトリー・スタッフや京都女子大学附属校と密に連携をとり、実践的な教育が行えるよう取り組んでいる。

#### 〔改善の方向性・課題〕

各学科に共通する課題として、教職課程の理念や目標のさらなる周知、教員間の連携強化が挙げられる。本学の教員養成の理念に基づき、学科での学びを教育現場で活かすことのできる教員養成に努めていることを大学ホームページ等の活用や、オープンキャンパス、高校訪問等でより積極的にアナウンスする等、広報活動の強化が必要だと考える。また、学科によっては教職課程への関与が教員間で限定的であるため、今後の支援体制の検討を進めていく必要がある。

#### <根拠となる資料・データ等>

・資料 1-1-②-1：大学 HP『各学科等の各段階における到達目標』

2019～2023 年度入学生

<https://www.kyoto-wu.ac.jp/career/kyoshoku/kyouin/grd7hl0000007ohd-att/grd7hl0000007opq.pdf>

2024 年度以降の入学生

<https://www.kyoto-wu.ac.jp/career/kyoshoku/kyouin/grd7hl0000007ohd-att/boogco000000jbe3.pdf>

- ・資料 1-1-②-2 : 大学 HP「授業紹介」(京都女子大学 HP)  
<https://www.kyoto-wu.ac.jp/gakubu/faculty/hattatsu/education/pickup.html>
- ・資料 1-1-②-3 : HP「セミナーレポート」(京都女子大学 HP)  
<https://www.kyoto-wu.ac.jp/nyushi/voice/seminar-report/boogco0000002qzs.html>  
<https://www.kyoto-wu.ac.jp/nyushi/voice/seminar-report/rhnb3000000tyiw220.html>  
<https://www.kyoto-wu.ac.jp/nyushi/voice/seminar-report/rhnb3000000tsyuewlsqakdf2135.html>  
<https://www.kyoto-wu.ac.jp/nyushi/voice/seminar-report/rhnb3000000nkoxewvmhka220407.html>  
<https://www.kyoto-wu.ac.jp/nyushi/voice/seminar-report/rhnb3000000rkrimiroa130.html>  
<https://www.kyoto-wu.ac.jp/nyushi/voice/seminar-report/rhnb3000000ntyhgawqetovfmlsza220412.html>  
<https://www.kyoto-wu.ac.jp/nyushi/voice/seminar-report/rhnb3000000nkokewqrmhkd21217.html>  
<https://www.kyoto-wu.ac.jp/nyushi/voice/seminar-report/rhnb3000000msmrka122.html>  
<https://www.kyoto-wu.ac.jp/nyushi/voice/seminar-report/rhnb3000000mstoz0130.html>  
<https://www.kyoto-wu.ac.jp/nyushi/voice/seminar-report/rhnb3000000tkst37.html>  
<https://www.kyoto-wu.ac.jp/nyushi/voice/seminar-report/rhnb3000000njb5nkyrkw325.html>  
<https://www.kyoto-wu.ac.jp/nyushi/voice/seminar-report/rhnb3000000nkktskmwetovfmhwx220411.html>

③教職課程教育を通して育もうとする学修成果（ラーニング・アウトカム）が、「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえて具体的に示されるなど、可視化を図っている。

#### 〔現状〕

「学位授与の方針」を踏まえた教員養成に対する理念及び目標を定め、大学ホームページにおいて学生に周知している。(資料 1-1-③-1、1-1-③-2)

教職課程科目の成績評価基準（評価項目・配分・評価の観点）については、シラバスに記載し、学生に周知している（シラバスは本学ポータルサイトから閲覧することができる）。(資料 1-1-③-3)

各科目と「学位授与の方針」に示す 5 つの能力〔①知識・理解、②汎用的スキル、思考力・判断力、④対話・協調性、⑤主体性〕との関連性については、単位修得要領の科目履修表にカリキュラムマップとして記載し、視覚的に示している。(資料 1-1-③-4)

#### 〔優れた取組〕

修得した科目の GPA を 5 つの能力別に集計しレーダーチャートに表したグラフを大学ポータルサイトにて表示している。学生は、自身の学修成果を視覚的に捉えることで、学修の到達度を確認し、課題に認識・履修目標の設定等、主体的な学びに役立てている。

教職課程を履修する学生はポータルサイトにて学期ごとに教職課程履修記録を作成している。過去の履修記録はいつでも閲覧することができ、定期的に振り返って自己の成長や意識の変化等

を確認することができるほか、毎年度実施する教職課程履修面談でも教員が確認のうえ指導を行っている。

〔改善の方向性・課題〕

大学ホームページに掲載している教員養成に対する理念及び目標についてさらなる周知を図るため学生への案内方法や機会を検討する必要がある。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料 1-1-③-1：大学 HP 『大学としての教員養成に対する理念』  
<https://www.kyoto-wu.ac.jp/career/kyoshoku/kyouin/grd7hl0000007ohd-att/boogco000000jbe1.pdf>
- ・資料 1-1-③-2：大学 HP 『各学科等の教員養成に対する理念』（2019～2023 年度入学生）  
<https://www.kyoto-wu.ac.jp/career/kyoshoku/kyouin/grd7hl0000007ohd-att/grd7hl0000007opp.pdf>
- ・資料 1-1-③-3：シラバス  
[https://syllabus.kyoto-wu.ac.jp/syllabus/campusquare.do?\\_flowExecutionKey=\\_cBAC73D0D-27C3-147A-A6F0-485F8CA51754\\_k4DA1D552-A92E-0988-3CF1-49AADAB5DCF7](https://syllabus.kyoto-wu.ac.jp/syllabus/campusquare.do?_flowExecutionKey=_cBAC73D0D-27C3-147A-A6F0-485F8CA51754_k4DA1D552-A92E-0988-3CF1-49AADAB5DCF7)
- ・資料 1-1-③-4：大学 HP 「単位修得要領」 <https://www.kyoto-wu.ac.jp/zaigaku/tani.html>

## 基準項目 1－2 教職課程に関する組織的工夫

①教職課程認定基準を踏まえた教員を配置し、研究者教員と実務家教員及び事務職員との協働体制を構築している。

### 〔現状〕

各課程に教職課程認定基準を踏まえた教員を配置している。

また、全学組織である教職支援センターには、学校現場や教育委員会等での実務経験を持つ特定教授（専任教員）、教職カウンセラー、事務職員を置き、教職課程に関する各種相談等に応じている。

教職支援センターに、センター長、副センター長のほか、教職課程を有する学科・専攻より選出された教員や副学長(教育・学生支援)の指名する教員、教務課長で構成された教職支援センター運営委員会を設置し、教職課程に関する自己点検・評価の実施や、各種施策の策定及び実施、教職課程運営にかかる諸問題の解決に関すること等について審議を行っている。(資料 1-2-①-1)

### 〔優れた取組〕

教職支援センター運営委員会の委員は、副センター長（学校現場等での実務経験のある特定教授）と学科・専攻より選出された教員、所管部署である教務課長等で構成されており、協働して各種施策の策定及び実施、教職課程運営にかかる諸問題の解決にあたっている。

### 〔改善の方向性・課題〕

コロナ禍以降、教職支援センター運営委員会はオンライン開催としていたが、各学科と教職支援センターの連携を図るため、今後は対面での開催を増やし意見交換の機会を増やしたい。

### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料 1-2-①-1：大学 HP「京都女子大学の教職課程運営体制等について」

<https://www.kyoto-wu.ac.jp/career/kyoshoku/kyouin/grd7hl0000007ohd-att/grd7hl0000007ori.pdf>

②教職課程の運営に関して全学組織（教職課程センター等）と学部（学科）の教職課程担当者で適切な役割分担を図っている。

### 〔現状〕

京都女子大学教職支援センター運営規則に定めるとおり、教職課程に関する各種施策を策定するとともに、その実施について中心的な役割を果たすことにより本学における教職課程の充実並びに地域における学校現場の問題解決に寄与することを目的として、教職支援センターを設置している。

各学科には、教職支援センター運営委員を置き、教職課程に関する全学的な施策や学生指導の実施について中心的な役割を果たすほか、教職課程に関する情報について学科の教員・学生への周知を行っている。

また各学科の教職支援センター運営委員は、教職課程相談員として、教育職員免許状に関する相談、具体的には各学科で取得可能な教員免許状に関連した履修方法や時間割に関する相談に対応している。(資料 1-2-②-1)

### 〔優れた取組〕

教職支援センターには、学校現場等の経験のある特定教授や教職カウンセラーを置き、教職課程

に関する進路相談や教員採用選考試験対策、教職応援セミナーの開催等、様々な支援を行っている。

各学科教員は、主に教職課程履修にあたっての教職課程履修面談や教育実習等の指導を行っている。

このように全学組織である教職支援センターと各学科の教職課程担当者との適切な役割分担を図っている。

#### 〔改善の方向性・課題〕

全学組織と各学科の教職課程担当者との適切に役割分担を図り、協働体制のもと教職課程を運営しているが、教職を目指す学生への総合的なサポートを行うためにより密に連携していくことが求められる。

#### ＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料 1-2-②-1：大学 HP「京都女子大学の教職課程運営体制等について」

<https://www.kyoto-wu.ac.jp/career/kyoshoku/kyouin/grd7hl0000007ohd-att/grd7hl0000007ori.pdf>

③教職課程教育を行う上での施設・設備が整備され、デジタル教科書を用いた教育指導に対応することも可能となっている。

#### 〔現状〕

授業に必要なソフト（Microsoft365 及び Teams 等）のライセンスを得た状態で授業を受講できるように、本学では全学生へノートパソコンの配布を行い、日常の学習場面から ICT スキルアップを図っている。

また、教科書として図書館の「電子の蔵」の「Maruzen eBook Library」「古典ライブラリー」「ジャパンナレッジ」等の豊富なコンテンツを学外からも利用する等、電子資料の利用について学ぶ機会を設けている。

データサイエンス学科では、設置デスクトップ型のハイスペック PC や電子黒板としての機能を持つプロジェクターが設置された教室で授業を行うなど、ICT を活用した指導法を学ぶ環境を整備している（資料 1-2-③-1）。

#### 〔優れた取組〕

各学科において、取得可能な教員免許種に関する教科書及び教育関連図書をそれぞれの研究室に配架しており、研究室にはデスクトップパソコンをはじめとする ICT 機器を設置し、各教科に応じたデジタル教科書を用いた授業が展開され、教育指導に対応することが可能な環境を構築している。

国文学科では、学生研究室に国語辞典等の辞典・辞書をはじめ、頻繁に使用する国語学・国文学・漢文学関係の書籍を揃えており、書名から配架位置を知るための目録はコミュニティにて公開している。それにより、学生が自由に閲覧できる環境を整え、模擬授業の練習や授業検討会などを含む学生の自主的な学習の促進を図っている。

データサイエンス学科では、ICT 設備が整った教室での授業をはじめ、学科独自のカフェエリアを活用し、授業時間外も学生が授業準備やプレゼンテーションの練習等が行える環境を設けている（資料 1-2-③-2）。

#### 〔改善の方向性・課題〕

現在、使用している電子黒板にはデジタル教科書がインストールされていないため、デジタル教

科書の導入や電子黒板への教材インストール等、ICT環境のさらなる整備や活用促進が課題となっている。

また、業務における ICT の実践的な活用や学べる機会を設け、課外活動の場においても ICT を活用していく必要がある。特に音楽教育分野に関しては、主としてタブレット(ロイロノート)を活用した授業案の作成、及びデジタル教科書の購入に向けた計画を進めていきたい。

データサイエンス学科では、前述のカフェエリアの利用者を増やすことを目的に、学科として積極的に学生へカフェエリア環境の利用を推奨し、認知度を高めていく必要がある。

#### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料 1-2-③-1 : 大学 HP 「デジタル教科書講習会」の記事 (京都女子大学 HP)

[https://www.kyoto-](https://www.kyoto-wu.ac.jp/gakubu/faculty/hattatsu/education/news/boogco000000kgs2.html)

[wu.ac.jp/gakubu/faculty/hattatsu/education/news/boogco000000kgs2.html](https://www.kyoto-wu.ac.jp/gakubu/faculty/hattatsu/education/news/boogco000000kgs2.html)

- ・資料 1-2-③-2 : 大学 HP データサイエンス学科「最新の施設～進化する東山キャンパス～」

<https://www.kyoto-wu.ac.jp/gakubu/faculty/data/index.html>

データサイエンス学科「今年もデータサイエンスカフェ (DS Café) を実施しています」

<https://www.kyoto-wu.ac.jp/gakubu/faculty/datascience/data/news/boogco0000005bvp.html>

④教職課程の質的向上のために、授業評価アンケートの活用を始め、FD (授業・カリキュラム改善、教育・学生支援体制の整備等) やSD (教職員の能力開発) の取り組みを展開している

#### 【現状】

本学では、各学期末に全科目対象の授業評価アンケートを実施し、学科会議において授業評価アンケートの共有・点検を全教員で行いながら、授業の改善を図っている。また、FD研修として、各学科でも独自にアンケートを実施し、その結果について学生との意見交換会を行っており、教職課程に関してもその重要な一部を構成している。これらの結果は全教員に共有され、教育・学生支援活動に向けた資質・能力の向上に努めている。(資料 1-2-④-1)

教育学科では、上記に加え附属小学校及び幼稚園における授業観察の実施や、共同で教育実習の反省会を行っている。また、SD研修として、インクルーシブ教育システムに関する学科主催の公開講座を開催している。(資料 1-2-④-2、1-2-④-3、1-2-④-4)

#### 【優れた取組】

各学科会議において、前述の授業評価アンケートの共有・点検に加え、学生や実習校への様々な対応に関する情報共有と議論を行っている。専任教員・非常勤講師に関わらず、学科で問題を共有し、授業の改善に努めている。

国文学科では、FD研修の取り組みとして、①図書館の「吉澤文庫」所蔵貴重書類を調査・検討のうえ、それらを集約した解題目録を学生全員に配布することが決定しており、会議での協議を行うことで、より特色ある授業の展開を目指している。②学習者主体のカリキュラム構築に向けて、在学生(4年生)を対象にニーズ等詳しい聴取を行っている。③外部講師を招き、初年次のライティング教育を専門科目に接続する試みに関して、低学力の学生の実態や指導法を含む講話を聞き、それを踏まえた意見交換を行うことで、ループブックについての学びを深め、評価する基準を明確化する意識付けを行った。

現代社会学科では、FD 研究の一環として専任教員による各人の研究内容の紹介冊子『京女で学ぶ現代社会』を毎年 1 回生用に出版している。本冊子を用いながら、教職課程担当者間での教育内容を共有することで、相互理解が促進されるとともに、教職課程教育における課題や問題点が明るみになり、より良い指導を行うことが可能である。(資料 1-2-④-5)

#### 〔改善の方向性・課題〕

各学科が取り組む FD 研修について、教職課程の質的向上に資する取組内容や到達目標を検討して設定し、今後も継続していく必要があると考える。学科会議を通して情報共有を行っているが、その他にも情報共有の場や機会を増やすことで、更なる教育・学生支援活動に向けた資質・能力の向上を図りたい。また、個別の支援を要する学生が増加の一途にあり、各科目担当者の支援能力の向上を目的とした研修の企画が求められる。

生活造形学科では、教職課程のみを突出させて教育・支援することは難しいため、他の専門領域とのバランスの中で何が可能かを検討していく必要がある。

#### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料 1-2-④-1 : 大学 HP [「FD 活動」](#)
- ・資料 1-2-④-2 : 大学 HP 「FD 研修会を開催しました」の記事 (2024 年度)  
<https://www.kyoto-wu.ac.jp/gakubu/faculty/education/news/boogco000000bgau.html>
- ・資料 1-2-④-3 : 大学 HP 「教育実習反省会」の記事 (2024 年度)  
<https://www.kyoto-wu.ac.jp/gakubu/faculty/education/news/rhnb30000001io0t.html>
- ・資料 1-2-④-4 : 大学 HP 「令和 6 年度 発達教育学部 教育学科開設記念 公開講座」の記事 (2024 年度)  
<https://www.kyoto-wu.ac.jp/gakubu/faculty/hattatsu/education/news/boogco000000lrvk.html> ・資料 1-2-5 : ・
- ・資料 1-2-④-5 : 『京女で学ぶ現代社会 2024 年度版』  
<https://www.cs.kyoto-wu.ac.jp/blog/wp-content/uploads/2024/04/kisosemi2024-0kisosemi.pdf>

⑤教員養成の状況についての情報公表を行っている。

#### 〔現状〕

教育職員免許法施行規則第 22 条の 6 の定めにより、本学ホームページにて以下の事項について情報を公表している。(資料 1-2-⑤-1、1-2-⑤-2、1-2-⑤-3、1-2-⑤-4、1-2-⑤-5、1-2-⑤-6) なお、教員の養成に係る授業科目、授業科目ごとの授業の方法及び内容並びに年間の授業計画については、単位修得要領やシラバスにて公開している。(資料 1-2-⑤-7、資料 1-2-⑤-8)

卒業生の教員への就職の状況等については「大学案内」にも掲載している。(資料 1-2-⑤-9)

#### 〔参考〕教育職員免許法施行規則

第二十二條の六 認定課程を有する大学は、次に掲げる教員の養成の状況についての情報を公表するものとする。

- 一 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関すること。
- 二 教員の養成に係る組織及び教員の数、各教員が有する学位及び業績並びに各教員が担当する授業科目に関すること。
- 三 教員の養成に係る授業科目、授業科目ごとの授業の方法及び内容並びに年間の授業計画に関すること。
- 四 卒業者（専門職大学の前期課程の修了者を含む。次号において同じ。）の教員免許状の取得の状況に関すること。
- 五 卒業者の教員への就職の状況に関すること。
- 六 教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組に関すること。

2 前項の規定による情報の公表は、適切な体制を整えた上で、刊行物への掲載、インターネットの利用その他広く周知を図ることができる方法によつて行うものとする。

#### 〔優れた取組〕

教育職員免許法施行規則第 22 条の 6 の定めにより大学ホームページ等にて適切に情報公開を行っている。

#### 〔改善の方向性・課題〕

中学校・高等学校においては、教科別の就職先状況を把握していないため、次年度以降は進路・就職課と連携して調査方法を検討する。

#### ＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料 1-2-⑤-1：大学 HP「教員の養成の状況」  
<https://www.kyoto-wu.ac.jp/career/kyoshoku/kyouin/rhnb3000000050ug.html>
- ・資料 1-2-⑤-2：大学 HP「特定教授・教職カウンセラーによる各種指導」  
<https://www.kyoto-wu.ac.jp/career/kyoshoku/counseling/index.html>
- ・資料 1-2-⑤-3：大学 HP「教員就職実績について」  
<https://www.kyoto-wu.ac.jp/career/kyoshoku/result/index.html>
- ・資料 1-2-⑤-4：大学 HP「教職支援センター年間行事予定」  
<https://www.kyoto-wu.ac.jp/career/rhnb3000000030xo-att/boogco000000jgdt.pdf>
- ・資料 1-2-⑤-5：大学 HP「教職課程自己点検・評価報告書、完了証」  
<https://www.kyoto-wu.ac.jp/career/kyoshoku/kyouin/rhnb3000000050ug.html>
- ・資料 1-2-⑤-6：大学 HP：教職支援センター刊行物  
<https://www.kyoto-wu.ac.jp/career/kyoshoku/publications/index.html>
- ・資料 1-2-⑤-7：シラバス  
[https://syllabus.kyoto-wu.ac.jp/syllabus/campusquare.do?\\_flowExecutionKey=\\_cBAC73D0D-27C3-147A-A6F0-485F8CA51754\\_k4DA1D552-A92E-0988-3CF1-49AADAB5DCF7](https://syllabus.kyoto-wu.ac.jp/syllabus/campusquare.do?_flowExecutionKey=_cBAC73D0D-27C3-147A-A6F0-485F8CA51754_k4DA1D552-A92E-0988-3CF1-49AADAB5DCF7)
- ・資料 1-2-⑤-8：大学 HP「単位修得要領」<https://www.kyoto-wu.ac.jp/zaigaku/tani.html>
- ・資料 1-2-⑤-9：大学 HP「大学案内（デジタルパンフレット）」  
<https://www.kyoto-wu.ac.jp/nyushi/daigaku/shiryo/index.html#anc05>

⑥全学組織（教職課程センター等）と学部（学科）教職課程とが連携し、教職課程の在り方により良い改善を図ることを目的とした自己点検・評価を行い、教職課程の在り方を見直すことが組織的に機能している。

#### 〔現状〕

本学では、令和4年度より毎年度教職課程自己点検・評価を実施して、本学としての教職課程の在り方について検討を進めてきたが、これまでは教職支援センター長をはじめとする教職課程カリキュラム検討部会を中心に、全学的な視点での自己点検・評価の実施方法で実施してきた。

（資料 1-2-⑥-1）

今回の点検・評価より、各学科の教職支援センター運営委員を中心に「学科等」「授業科目」レベルで点検・評価を行い、教職課程カリキュラム検討部会を中心に「大学全体」での点検・評価を行うことで各レベルでの現状の認識・把握と、優れている点や改善を要する点の自己評価を行うことができた。

#### 〔優れた取組〕

実施方針の策定にあたって、教職支援センター、学修支援専門部会、執行部会及び部局長会で審議を行ったほか、各学部教授会にて報告を行い、教職課程自己点検・評価実施の目的や方法について学長のもと全学的な周知を図ることができた。

また、特に教員の養成を主たる目的とする発達教育学部教育学科以外の学科において、教職課程における現状の把握と課題や優れている点の認識を行うことができた。

#### 〔改善の方向性・課題〕

次年度以降も継続して学科における点検・評価を実施するが、実施方法等については毎年度検討が必要である。

#### <根拠となる資料・データ等>

・資料 1-2-⑥-1：大学 HP「教職課程自己点検・評価報告書、完了証」

<https://www.kyoto-wu.ac.jp/career/kyoshoku/kyouin/rhnb3000000050ug.html>

## 基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

### 基準項目 2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

①当該教職課程で学ぶにふさわしい学生像を「入学者受け入れの方針」等を踏まえて、設定し、学生の募集や選考ないしガイダンス等を実施している。

#### 〔現状〕

本学では、大学 HP、オープンキャンパスや高校訪問、大学入学案内等の広報誌を通じて学生募集及び広報活動を行っている。特に受験生向けの広報媒体である冊子『大学案内』にて、在学中に取得可能な資格や教員免許について言及し、昨年度の各免許状取得者数や教職就職者数等を周知している。(資料 2-1-①-1)

また、各学科において教員養成に対する理念を明確にして公表することにより、入学者受け入れ方針に上乗せする形で、各学科・専攻の学びと教職課程での学びを融合し、幅広い視点から社会に貢献する意欲をもった人材を求めていることを情報発信している。(資料 2-1-①-2、2-1-①-3)

上記を通して、教職課程で学ぶにふさわしい学生像—すなわち教育に強い興味と関心とを抱き、教科の学びを修得し、知識・技能、思考力・判断力・表現力を活かして教育現場に貢献すること—を意識した学生の募集を行っている。入学後も、教職課程履修や教職課程履修面談及び教育実習のガイダンス等において、教職課程で学ぶにふさわしい学生像について学生へ周知させている。

#### 〔優れた取組〕

各年度内に様々な形式の入学試験を実施し、入学者受け入れの方針に基づいた多角的な学生募集及び選考を行っている。オープンキャンパスでは、教職員のみならず在校生が身近な存在として参加し、教職課程における履修の状況、大学生活についてアドバイスを行っており、高校生に教職課程で学ぶイメージを持ちやすくする効果を持たせている。

また、教職課程履修面談において、『教職課程ハンドブック』を用いた指導を行い、各学科の教員養成の理念を念頭にした教職履修の心得に関する説明を行っている。(資料 2-1-①-4)

本学では、教職課程履修可能の基準として、累積 GPA が 2.0 以上の者と規定しており、専門科目と教職課程科目の履修状況がどちらも良好であることを確認し、学修成果の不良を避けている。なお、教職課程履修面談では、GPA による教職履修制限に関する指導も行っている。

#### 〔改善の方向性・課題〕

年内合格を希望する受験生が増加する中、春・夏季における広報活動の重要性が高まっているため、今まで以上に本学のアドミッションポリシーを効果的に受験生に届ける努力が必要である。高度な言語能力と実践的指導力を兼ね備えた教員を育成するという、学科の特色ある教職課程を、夏期講習会やオープンキャンパスでの実技ワンポイントアドバイスレッスン、学外における講演会や高校訪問等を通じて広報周知していく必要があると考える。教員養成として、教員免許の取得者及び教員採用試験の合格者を増加させることは重要な課題である。

#### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料 2-1-①-1：大学 HP「大学案内（デジタルパンフレット）」  
<https://www.kyoto-wu.ac.jp/nyushi/daigaku/shiryo/index.html#anc05>
- ・資料 2-1-①-2：大学 HP「入学者受け入れの方針」  
<https://www.kyoto-wu.ac.jp/nyushi/daigaku/senkou/index.html>
- ・資料 2-1-①-3：大学 HP「各学科等の教員養成に対する理念」

<https://www.kyoto-wu.ac.jp/career/kyoshoku/kyouin/grd7hl0000007ohd-att/grd7hl0000007opp.pdf>

- ・資料 2-1-①-4：大学 HP 『[教職課程ハンドブック](#)』

②「教育課程編成・実施の方針」等を踏まえて、教職を担うにふさわしい学生が教職課程の履修を開始・継続するための基準を設定している。

#### 〔現状〕

本学では、教職課程を履修するにあたり、取得を希望する校種・免許種について資格申請を行うよう指導している。

教職課程履修可能の基準としては、「京都女子大学履修要項」に定めるとおり各学年終了時の累積 GPA が 2.0 を下回った者については原則として次年度の教職課程科目の履修を制限している。(資料 2-1-②-1)

また、免許の種類・教科ごとに別に定める基準を満たさない者については、教職課程の履修を制限することがある。現在は、中学校及び高等学校「英語」の取得を希望する者について、優れた資質と能力を持った英語科教員を輩出するために、英語力に関して、本学で受験可能な英語検定試験に基づき、独自の履修条件を設けている。

#### 〔優れた取組〕

新入生に対しては入学後にオンデマンドで教職課程履修ガイダンスを実施し、4年間の教職課程履修の流れや教員採用選考試験に向けた取り組みについて説明している。

また、教職課程を履修する 2 回生に対しては「教職課程ハンドブック」を配布して、「育成する教職志望の学生像」や「教員養成の思い」、教員採用選考試験に向けて取り組むべき内容や教育実習等についてより詳しい説明を行っている。

前述の教職課程履修制限については、入学時に配布する「単位修得要領」や新入生向けガイダンス資料、「教職課程ハンドブック」、各学科教員にて実施する教職課程履修面談にて説明を行い、周知を図っている。

その他、英語力に関する履修制限については、教員採用選考試験における加点に有効である IELTS 及び TOEFL iBT についても対象の語学検定試験に追加することを検討し、令和 7 年度より導入することが決定した。

#### 〔改善の方向性・課題〕

令和 7 年度より成績評価方法を変更するにあたって、新基準で計算した場合の累積 GPA の平均値は、現基準で計算した場合と比べて低下する見込みである。それを受けて、令和 7 年度以降在学生に対し、教職課程履修制限の基準値を 2.0 未満から 1.7 未満のものへ変更することとした。

ただし、新基準での成績評価による累積 GPA 値については向こう数年間経過観察を行い、基準値の見直しを含めて継続的に検討が必要である。

#### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料 2-1-②-1：京都女子大学履修要項（単位修得要領内に掲載）：

<https://www.kyoto-wu.ac.jp/zaigaku/tani.html>

③「卒業認定・学位授与の方針」等を踏まえて、当該教職課程に即した適切な規模の履修学生を受け入れている。

**〔現状〕**

前項のとおり、教職課程履修にあたっての履修方法、「育成する教職志望の学生像」や「教員養成の思い」、教職課程履修制限等については新入生向けガイダンスや「教職課程ハンドブック」及び「単位修得要領」にて周知を行っているが、基準を満たした学生については、人数に関わらず履修学生を受け入れている。(資料 2-1-③-1、2-1-③-2)

**〔優れた取組〕**

履修を希望する学生の受け入れについては人数の制限を設けていないが、各年度の累積 GPA 等で履修制限を設けているほか、教育実習の履修にあたって先修条件科目等、履修の条件を設け、送り出す学生の資質・状況を確認している。

**〔改善の方向性・課題〕**

教職課程履修の意思は学生の判断にゆだねているため、意欲の低い学生が履修を続け、教育実習前に履修をやめたいと申し出ることもある。

毎年度実施する教職課程履修面談にて進路やモチベーションについて確認を行うことが今後求められる。

**<根拠となる資料・データ等>**

- ・資料 2-1-③-1：大学 HP「京都女子大学履修要項」（単位修得要領内に掲載）

<https://www.kyoto-wu.ac.jp/zaigaku/tani.html>

- ・資料 2-1-③-2：大学 HP「教職課程ハンドブック」

<https://www.kyoto-wu.ac.jp/career/kyoshoku/publications/index.html>

④「履修カルテ」を活用する等、学生の適性或資質に応じた教職指導が行われている。

**〔現状〕**

本学では学生の履修を LMS、ポートフォリオ及び学科独自の履修状況一覧によって管理・共有しており、学生や教員が Web を通じて常に履修状況を確認できる環境にある。

また、年度始めに教職課程履修面談を実施（4 回生は後期始めにも実施）しており、面談に先立ち、教職履修者には本学 LMS のポートフォリオにて「教職課程履修記録」への記入を求め、前年度（4 回生後期は前期）の振り返りを学生自身が行えるような取り組みをしている（資料 2-1-④-1）。記入内容を基に、教職課程履修面談において個々に応じた教職指導を心掛けている。

**〔優れた取組〕**

各学科共通して、上記のポートフォリオシステムを活用し、年度はじめと 4 回生の後期はじめに教職課程履修面談を行い、個別の教職課程履修記録を参考にしながら、学生自身がどのように教職課程に取り組んでいるか、教職への意志・教職課程科目の単位修得状況・学生の強みと課題、スクールサポーター等のボランティア経験の確認を行うとともに、教職課程履修相談として、教職課程履修に関する不安や悩みを聞き取り、学生のニーズに沿った指導を提供できるよう心掛けている。欠席者に対しては、反省文の提出を課すなど、学科として統一的で厳正に対応し、教職に就く責任感や資質について自己観照を促している。

また、教育実習中などに学生の資質に問題が認められた場合は、即座に対応し、学科会議で学科教員全員が協議して指導にあたっている。複数の教員が面談指導を行い、その後の「教職実践演習」や次年度の「事前オリエンテーション」でもさらなる注意喚起を行うことで、再発を防げるように対応している。

#### 〔改善の方向性・課題〕

教職課程履修記録や学生の状況から、教職課程全体での学修成果と課題を確認し、必要に応じて対応する試みを、今後も継続して行う必要がある。また、都道府県の教員採用選考試験に行われる実技、模擬授業、場面指導等の試験のニーズに寄り添った指導をいかに丁寧に行うかが課題である。指導教員に教職課程の履修内容や情報を共有する場を積極的に設け、教職委員以外の教員も教職課程について深く知る機会を設ける必要があると考える。

学期初めだけでなく、学期中や学期末にも面談を実施することで、学生の状況が把握でき、更なる指導効果が期待できると考える。

#### ＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料 2-1-④-1：大学 HP「京都女子大学の教職課程運営体制等について」

<https://www.kyoto-wu.ac.jp/career/kyoshoku/kyouin/grd7hl0000007ohd-att/grd7hl0000007ori.pdf>

## 基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

①学生の教職に対する意欲や適性を把握している。

## 〔現状〕

大学のポータルサイト内で学期ごとに「学修記録」とあわせて「教職課程履修記録」を作成させ、「教職を目指す上で課題と考えている事項」や「自分の望む理想の教師像」について考え、振り返る機会としている。(資料 2-2-①-1、2-2-①-2)

毎年度、教職課程を履修する学生に対して学科教員が教職課程履修面談を行い、「教職課程履修記録」を閲覧しながら、意思の確認や履修指導を行っている。

## 〔優れた取組〕

面談を担当した教員は面談内容をポータルサイト内に入力することにしており（学生には非公開）、同じ学科内の専任教員は内容を確認することができるため、学科全体で過去の状況も踏まえて教職課程における指導を行うことができている。

教職支援センターを利用する学生については、学生別にカルテを作成している。担当した特定教授や教職カウンセラーが指導内容等を随時書き込むことで、学生の状況を共有し、次回以降の指導に活用している。

## 〔改善の方向性・課題〕

4 回生後期開講「教職実践演習」ではこれまでに蓄積してきた「教職課程履修記録」を活用することとしているが、どの程度活用しているか把握できていない。今後は、「教職課程履修記録」の活用状況を把握し、改善を行いたい。(資料 2-2-①-3)

## ＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料 2-2-①-1：大学 HP「京都女子大学履修要項」（単位修得要領内に掲載）

<https://www.kyoto-wu.ac.jp/zaigaku/tani.html>

- ・資料 2-2-①-2：大学 HP「教職課程ハンドブック」

<https://www.kyoto-wu.ac.jp/career/kyoshoku/publications/index.html>

- ・資料 2-2-①-3：「教職実践演習」シラバス：

[https://syllabus.kyoto-wu.ac.jp/syllabus/campusquare.do?\\_flowExecutionKey=\\_cBAC73D0D-27C3-147A-A6F0-485F8CA51754\\_k4DA1D552-A92E-0988-3CF1-49AADAB5DCF7](https://syllabus.kyoto-wu.ac.jp/syllabus/campusquare.do?_flowExecutionKey=_cBAC73D0D-27C3-147A-A6F0-485F8CA51754_k4DA1D552-A92E-0988-3CF1-49AADAB5DCF7)

②学生のニーズや適性の把握に基づいた適切なキャリア支援を組織的に行っている。

## 〔現状〕

教職支援センターにて、様々な教員採用選考試験に向けての支援事業を行っている。

(資料 2-2-②-1、2-2-②-2)

進路相談	学校現場や教育委員会で指導経験のある特定教授が相談に応じている。1 回生利用可能。
教員採用選考試験対策	特定教授及び教職カウンセラーによる各種指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章添削（志願書・小論文等）</li> <li>・面接（個人・集団）指導</li> <li>・集団討論・場面指導</li> <li>・模擬授業・保育実技等</li> </ul>

教職応援セミナー	2・3回生を対象に、「自己分析・自己PR」「目指す教師像」等、今考えるべきテーマに沿って実施している。
情報提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自治体の教員採用選考試験募集要項の配布、過去問題や受験生アンケートを設置</li> <li>・教員採用選考試験合格者からのメッセージ動画配信</li> </ul>
学生ボランティアの紹介	近畿圏内の学校・幼稚園の学生ボランティアのほか、京都女子大学附属小学校、京都女子中学校における学習支援等のボランティアの紹介を行っている。
「筆記試験特化講座」「小論文講座」の実施	専門業者主催の「筆記試験特化講座」「小論文講座」を開催し、受講料の補助を行っている。

#### 〔優れた取組〕

現状に記載のとおり、教職支援センター特定教授・教職カウンセラーを中心に、多岐にわたったきめ細かい指導を行っている。

令和6年度からは新たに教職支援センターパンフレットを作成し、新入生に配布して教職支援センターの紹介を行った。

また、教職支援センター特定教授を中心に、授業やセミナー等で教職支援センターでの支援事業について紹介・周知を進めた結果、特定教授や教職支援センターへの相談利用者数は、前年度に比べて延べ人数・実人数ともに増加し、教職支援センターについて学生の認知度が上がり利用につながったと言える。

#### 〔改善の方向性・課題〕

進路相談に関しては、前年度に比べて教員採用選考試験に向けた利用者数が増加したが、一方で計画的に準備を進めることができず、試験間際になって駆け込み的に、個人面接や場面指導、模擬授業の練習を行った学生も一定数いた。

また、教職応援セミナーや「筆記試験特化講座」「小論文講座」については、前年度に比べて受講者数が大きく減少した。開催にあたっては例年通り、大学のポータルサイトでお知らせしたり、各実習指導室にチラシを掲示したりしていたが、学生へ情報が伝わっていないことが原因であると考えられる。

次年度以降、教職応援セミナーの支援事業については、各学科の教職支援センター運営委員を中心に、アドバイザー教員等からも周知するなど、対象学生へくまなく情報が行き渡るよう周知方法を検討したい。

#### ＜根拠となる資料・データ等＞

・資料 2-2-②-1：大学 HP 教職支援センター研究紀要（京都女子大学リポジトリ／教職支援センター年次報告）<https://www.kyoto-wu.ac.jp/career/kyoshoku/publications/index.html>

・資料 2-2-②-2：大学 HP 「教職課程ハンドブック」

<https://www.kyoto-wu.ac.jp/career/kyoshoku/publications/index.html>

③教職に関する各種情報を適切に提供している。

#### 〔現状〕

教職支援センター内に図書コーナーを設置し、試験問題数や教職関係の雑誌や教育新聞等を配架している（一部貸出可）。また、学生ボランティアの募集ファイルや過去に参加した学生が作成した「活動報

告書」を設置して、ボランティア先を探すことができるようにしている。

また、教員採用選考試験にあたっては各自治体の募集要項の配布を配布しているほか、教員採用選考試験合格者からのメッセージ動画配信や受験生アンケートの結果を公開し、受験を希望する自治体の試験内容や対策方法についての情報を発信している。

教職支援センターが主催する教職応援セミナーや各種講座の開催については、大学のポータルサイトに掲示しているほか、各実習指導室にチラシを掲示している。

また、各自治体の教員養成講座や教員採用選考試験に関する説明会を学内で開催し、情報収集の機会を設けている。(資料 2-2-③-1、2-2-③-2)

#### 〔優れた取組〕

教職支援センター及び進路・就職課において、各種教員採用選考試験、教職大学院に関する情報等を提供している。

教職支援センター内の資料・図書コーナーは、事務職員や特定教授の席の近くに設置しており、わからないことや情報収集の方法についてはすぐに質問できるようにしている。

#### 〔改善の方向性・課題〕

オンライン上の情報発信は大学のポータルサイトのお知らせ機能を使用しているが、セミナーや講座の利用者減少という状況を見ると、情報が埋もれてしまい、適切に届いていないと考えられる。

今後、教職支援センターからの情報は sharepoint サイトを作成する等、一か所に集約するなど、情報発信方法について検討が必要である。

#### ＜根拠となる資料・データ等＞

・資料 2-2-③-1：大学 HP 教職支援センター研究紀要（京都女子大学リポジトリ／教職支援センター年次報告）<https://www.kyoto-wu.ac.jp/career/kyoshoku/publications/index.html>

・資料 2-2-③-2：大学 HP 「教職課程ハンドブック」

<https://www.kyoto-wu.ac.jp/career/kyoshoku/publications/index.html>

④教員免許状取得件数、教員就職率を高める工夫をしている。

#### 〔現状〕

本学では、学生が希望する教員免許状を取得できるように、履修モデルを用いた指導や教職課程履修面談を行い、教員免許取得件数を高めることに努めている。

また、教職支援センターでは教員採用選考試験学内説明会等を開催しており、教職を志す学生の就職支援を積極的に行っている。

特に、教育学科においては、教員採用選考試験に向けた模擬授業等の個別指導も積極的に行い、教員就職率を高めることに努めている。(資料 2-2-④-1)

#### 〔優れた取組〕

教職のキャリア支援として毎年度教職課程履修面談を実施し、現状を鑑みるとともに、各段階における到達目標を確認するなどしている。

また、教員採用試験（2次）対策を夏季に実施している。特に、中学校・高等学校「外国語」の教員採用試験では、英語による面接、模擬授業や場面指導が課される教育委員会が殆どであるため、試験前には、対面やオンラインも含めて一人あたり 5 回前後の練習を行っている。

その他の学科独自の取り組みとして、栄養教諭を養成する食物栄養学科では、各都道府県・市町が実施する教師塾への案内や、食育ボランティア活動への参加を通して、児童・生徒、また教育現場の様子を知

る機会を提供している。(資料 2-2-④-2)

#### 〔改善の方向性・課題〕

教員免許状取得件数だけでなく、教員就職率を高める努力を継続していく必要がある。

教職科目担当者は、各地域から求められている教師像等を更に探求し、特に教員採用試験の内容等について、学生が互いに情報を共有できる機会を増やし、試験準備に関する意識を高める支援が求められる。

また、ゼミ等の演習担当教員が連携を図り、教職課程履修面談内容の共有や指導方法の統一を図ることで、より効果的なキャリア支援が可能になると考える。

#### ＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料 2-2-④-1 : 『大学案内 2025』

[https://www.d-pam.com/kyoto-wu/2413306/index.html?tm=1#target/page\\_no=1](https://www.d-pam.com/kyoto-wu/2413306/index.html?tm=1#target/page_no=1)

- ・資料 2-2-④-2 : 京都女子大学 栄養クリニック 活動報告書

<https://www.kyoto-wu.ac.jp/laboratory/eiyouclinic/jirei/rhnb3000000046vz-att/boogco00000ay6t.pdf>

⑤キャリア支援を充実させる観点から、教職に就いている卒業生や地域の多様な人材等との連携を図っている。

#### 〔現状〕

国文学科や英文学科、教育学科、児童学科、食物栄養学科では、教職におけるキャリア形成をイメージできるように、教職に就いている卒業生の現職教員・管理職をゲストスピーカーに招いた授業を行っている。(資料 2-2-⑤-1、2-2-⑤-2、2-2-⑤-3)

また児童学科では教育現場から機会をいただいて、制作や人形劇、音楽のワークショップ等の公演・開催を学生中心に行い、教育現場に触れる機会を得ている(資料 2-2-⑤-4)。

史学科では教職に就いた卒業生と定期的に面談したり、学会や研究会において地域の多様な人材、中高教員をはじめとする人材と交流を行ったりしている。学生をこれらの機会に招いたり、交流後に、入手した情報を学生に伝えたりして連携を図っている。

なお、データサイエンス学科は、学部完成年度を迎えていないため、教職課程修了者および学部を卒業し教職に就いている卒業生はいないが、学部必修科目である入門演習Ⅰ、入門演習Ⅱ、データサイエンス基礎演習Ⅰ、データサイエンス基礎演習Ⅱでは、企業や自治体と PBL を行っており、様々な職種の方々と連携を図っている(資料 2-2-⑤-5)

#### 〔優れた取組〕

「京女教師の会」が発足している(資料 2-2-⑤-6)。また、児童学科では地域の要請に応えた活動も行っている(資料 2-2-⑤-7)。

国文学科では1回生必修「国文学基礎講座A」にて「キャリア育成のための、ゲストスピーカーによる授業」の回を設けている。今年度は、現職教職の卒業生を招き、教育現場が求めている教師像を把握でき、4年間の教職課程のアドバイスになるような講話を聞いた。国文学科では免許を取得して教員になる割合が高いが、その中でも特に優秀であった学生を招いている。

教育学科養護・福祉教育学専攻の教職実践演習の授業では、卒業生を中心に、現職の教員の方々と学生と一緒に講演を聞き、グループワークを実施する授業を展開しており、次年度より学校現場で働く学生にとって有意義な授業となっており、教職に就いた卒業生の話を聞ける機会ともなっている(資料 2-2-⑤-

8)。

〔改善の方向性・課題〕

卒業生や地域の教員等との連携を深めるため、リカレント教育の充実が求められる。

教職に就いた卒業生だけでなく地域の多様な人材等とも連携できるとよい。特に相互に人事的流動性・職業的共通性の高い保育士は「京女教師の会」の対象外で、連携が必要である。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料 2-2-⑤-1：大学 HP 「教育学専攻教員の教育活動」の記事  
<https://www.kyoto-wu.ac.jp/gakubu/faculty/hattatsu/education/news/rhnb30000001io30.html>
- ・資料 2-2-⑤-2：大学 HP 「ゲストティーチャーによる授業」の記事  
<https://www.kyoto-wu.ac.jp/gakubu/faculty/education/news/boogco000000j48c.html>
- ・資料 2-2-⑤-3：大学 HP 「2024 年度「卒業生による講演会」を開催します」の記事  
<https://www.kyoto-wu.ac.jp/gakubu/faculty/archive/ongaku/boogco000000cigc.html>
- ・資料 2-2-⑤-4：大学 HP 内#教育学科 News 『京都女子大学人形劇団たんぼぼ（松崎ゼミ）』  
<https://www.kyoto-wu.ac.jp/gakubu/faculty/hattatsu/education/news/boogco0000009po4.html>
- ・資料 2-2-⑤-5：シラバス  
[https://syllabus.kyoto-wu.ac.jp/syllabus/campussquare.do?\\_flowExecutionKey=\\_cBAC73D0D-27C3-147A-A6F0-485F8CA51754\\_k4DA1D552-A92E-0988-3CF1-49AADAB5DCF7](https://syllabus.kyoto-wu.ac.jp/syllabus/campussquare.do?_flowExecutionKey=_cBAC73D0D-27C3-147A-A6F0-485F8CA51754_k4DA1D552-A92E-0988-3CF1-49AADAB5DCF7)
- ・資料 2-2-⑤-6：大学 HP 教員 OG 連携組織「京女教師の会」  
<https://www.kyoto-wu.ac.jp/career/kyoshoku/kyoshinokai/index.html>
- ・資料 2-2-⑤-7：京都市公式子育て情報「はぐくーも KYOTO」  
**【京都女子大学親子支援ひろばぴっばらん活動見学レポート！】**  
<https://www.instagram.com/reel/DCYLB9kPCKW/>
- ・資料 2-2-⑤-8：大学 HP 「教職実践演習（養護教諭）の授業で京都府宇治市の小学校、両丹地区の高等学校の養護教諭の先生方と4年生がグループワークをしました」  
<https://www.kyoto-wu.ac.jp/gakubu/faculty/shinrikyosei/news/boogco0000001728.html>

### 基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

#### 基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

①建学の精神を具現する特色ある教職課程カリキュラムを編成・実施している。

##### 〔現状〕

本学の設置理念である「心の教育」を基礎として、「仏教精神を学ぶことを通し宗教に対する正しい理解と正しい批判力とを身につけ、生涯を通じて、生きることの意味を問い続けられるように」することを人材養成・教育研究上の目的の一つとしている。教員として身につけるべき能力・資質を養うカリキュラムは、この目的に基づいて設定されている。(資料 3-1-①-1)

教育学科では、本学の設置理念である「心の教育」を基礎として、建学の精神を深く学ぶ仏教学のみならず、その隣接する領域に関する教養科目も卒業に必要な単位と位置付けている。更に「インクルーシブ教育論」「免疫学」等、時代に即した課題を探究する科目も設定されている。養護教諭養成に関しては、「人体生理学」や「精神保健」に関する選択科目も用意されている。

現代社会学科では、とりわけ現代社会における諸問題の解決のために他者と創造的に協働することの重要性を生徒たちに伝え、かつ自身もそのための能力を生涯かけて伸ばす努力を行うことのできる教員の養成を目指している。そのための特色ある教科専門科目とプログラムを準備しており、とくに社会科・公民科教員養成にふさわしい科目群を提供している。

データサイエンス学科では、本学の設置理念である「心の教育」を基礎として、「データサイエンスの基盤となる数理・統計学、情報学の双方を丁寧に身につけた、これからのデータ・AI 社会において必要な人材養成に対応できる教員」の具現に向け、初年度においては進度に合わせた複数クラスによる開講や、講義科目と演習科目をセットで開講する科目を設定するなどの工夫を行っている。

##### 〔優れた取組〕

国文学科の講読や国文学史等の専門科目においては、学業レベルの向上のみならず、人（自分）が生きるということはどういうことなのか、について文学を通じて常に問いかけ、学生自身で問題点を見出し、考察する訓練を通じて、すべての生活の基礎となる国語力を伸展させる教育を行っている。

養護・福祉教育学専攻では、京都市小学校保健研究会と共同して小学生及び保護者を対象に、「京都市夏期健康学園（京キッズ・ヘルスプロモーション）」プロジェクトや、「小学校で成長期のからだと下着の特別授業 ～ワコールと連携し、からだの変化やプライベートゾーン、下着の役割などを教える～」プロジェクトや、「親鸞聖人の体せられた仏教精神にもとづく人間教育」に対応するため、仏教音楽に精通した講師を招聘や仏教に関連する雅楽の実技実習を取り入れている。(資料 3-1-①-2)

##### 〔改善の方向性・課題〕

建学の精神に基づく教育理念とそれぞれの専攻の専門科目が密接に結びつく授業科目や、教育と福祉の領域がより深く連携するためのカリキュラムの工夫・改善を図るための方策を検討する必要がある。

##### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料 3-1-①-1：大学 HP カリキュラムツリー（各学科ページ「カリキュラム」に掲載）

<https://www.kyoto-wu.ac.jp/gakubu/index.html>

・資料 3-1-①-2：大学 HP 「養護教諭を目指す学生達が、小学校で成長期のからだと下着の特別授業 ～ワコールと連携し、からだの変化やプライベートゾーン、下着の役割などを教える～」の記事

<https://www.kyoto-wu.ac.jp/gakubu/faculty/shinrikyosei/news/boogco00000019p8.html>

②学科等の目的を踏まえ、教職課程科目相互とそれ以外の学科科目等との系統性の確保を図りながら、コアカリキュラムに対応する教職課程カリキュラムを編成している。

#### 〔現状〕

各学科では、各学科等の教員養成に対する理念を踏まえて、教職課程の学びに関連してその学びをさらに広めたり深めたりする専門科目を系統的に配置し、コアカリキュラムに対応する教職課程カリキュラムを編成している。また、教職課程科目相互とそれ以外の学科科目等との系統性については各学科のカリキュラムツリーを作成し、大学ホームページに掲載しており、新入生ガイダンス等で学生にも案内している。(資料 3-1-②-1)

教育学科では、教員になった 1 年目から教師としての諸能力を発揮できるとともに、その能力を生涯にわたり伸ばし続けることのできる教師(「学び続ける教師」)の育成を目指して、コアカリキュラムに対応する教職課程カリキュラムを編成している。加えて、養護・福祉教育学専攻では、養護教諭及び社会福祉士に関する科目群が幅広く履修可能であり、常に福祉マインドを有する教員の養成が意識されている。音楽教育学専攻では、音楽の技能・知見を広げる選択科目も組みあわせて編成している。

#### 〔優れた取組〕

養護教諭の養成課程に関して、養護教諭養成課程コアカリキュラム「養大協コアカリ 2020」がどのくらい達成できているかを、教職実践演習(養護教諭)を受講している学生を対象に調査し、授業に活用している。それにより、養護教諭としての使命感と児童生徒への愛情を深め、養護教諭としての資質・能力を向上させる意欲を持つとともに、児童生徒の健康課題を理解し、他者と協働して課題解決に取り組む資質・能力を身に付けることができているかを評価している。(資料 3-1-②-2)

児童学科のカリキュラムツリーは、縦軸に児童学の専門科目を 7つのカテゴリー(「児童学」「児童の発達」「児童の保健」「児童の文化」「児童の表現」「保育・教育」「社会教育」)を設定して提示、そして、横軸に学年を追った学びの流れ(「1 学年：保育・教育に関する基礎と、児童学の 4 領域の基礎を学ぶ」「2 学年：専門科目の学習を通し、子どもや保育を理解する」「3 学年：これまでの学びを総合的化し、子どもや子どもの育ちを多面的に考える力を育てる」「4 学年：卒業研究に取り組む」)を示し、児童学を基盤とした系統的な幼稚園教諭養成課程の学びがわかりやすく可視化されている。(資料 3-1-②-3、3-1-②-4)

#### 〔改善の方向性・課題〕

養護・福祉教育学専攻では、入学当初には希望者が多いスクールソーシャルワーカー養成のためのキャパシティー拡充に関する取り組みが必要である。音楽教育学専攻では、音楽の技能・知見を広げていくためには優れたカリキュラム編成であるが、個々の専門性を高めていく点においては、開設可能な授業数の限度もあり、課題が残る。

#### <根拠となる資料・データ等>

・資料 3-1-②-1：大学 HP カリキュラムツリー(各学科ページ「カリキュラム」に掲載)

<https://www.kyoto-wu.ac.jp/gakubu/index.html>

- ・資料 3-1-②-2 : 「京都女子大学発達教育学部紀要第 19 号 (2023)」

[http://repo.kyoto-wu.ac.jp/dspace/bitstream/11173/3709/1/0080\\_019\\_012.pdf](http://repo.kyoto-wu.ac.jp/dspace/bitstream/11173/3709/1/0080_019_012.pdf)

- ・資料 3-1-②-3 : 大学 HP 『児童学科 学びの特徴』

<https://www.kyoto-wu.ac.jp/gakubu/faculty/archive/jido/manabi.html>

- ・資料 3-1-②-4 : 大学 HP 『児童学科 カリキュラム』

<https://www.kyoto-wu.ac.jp/gakubu/faculty/archive/jido/rhnb3000000012ya-att/rhnb30000000yxhv.pdf>

③教員育成指標を踏まえる等、今日の学校教育に対応する内容上の工夫がなされている。

#### 〔現状〕

学校現場や社会で求められるニーズに対応するために、教員が教育委員会や学校現場との連携を通して、教員に求められる資質・能力を把握し、各担当授業科目において、教科指導の専門性の向上、ICT 活用指導力、特別な配慮や支援を必要とする子どもへの指導等について最新の情報を提供することにより、今日の学校教育の課題に対応する内容上の工夫を行っている。(資料 3-1-③-1)

#### 〔優れた取組〕

教育学科の教職実践演習の授業では、学校現場の先生をゲストスピーカーとして迎え、京都市教員等の資質の向上に関する指標の内容ができていくかどうかを自己評価する機会を設けている(資料 3-1-③-2、3-1-③-3)。

児童学科では、実習協力幼稚園へ教育実習説明会を開催し、園長先生等と意見交換をする場を設け、幼稚園教諭として求められる資質や専門性、配慮が必要な子どもへの指導方法や支援が必要な保護者へのサポートについて、実習協力園と大学で情報を共有している(資料 3-1-③-4)。その後、各担当授業科目において、説明会で共有された最新情報が提供され、今日の学校教育に対応する内容上の工夫がなされている。また、地域等の幼稚園関係団体の会合等にも可能な限り出席し、情報交換に努め、授業に生かしている。

英文学科では京都女子中学校での「英会話パートナーPG」に参加することで、今日の英語科授業では、英語によるアンケート調査実施、調査分析、プレゼンテーションを指導する必要があることを体験的に知る機会を得た。英語でのアンケートやプレゼンテーションの機会は大学の授業に限られるものではなく、中学生や高校生を指導する上でも重要であることを実感する貴重な機会となった。(資料 3-1-③-5)

データサイエンス学科では、1 回生前期から学部必修科目で Ruby, Python, R の 3 つのプログラミング言語を修得する。また、1 回生の後期の教職課程科目であるプログラミング I では、さらに C++言語を修得する。このように早い段階から ICT 活用の基盤となるコンピュータの仕組みやプログラムについて深く学ぶ機会が提供されており、学校現場のどのような ICT 環境にも柔軟に適用できるレジリエンスを獲得することが可能である。

#### 〔改善の方向性・課題〕

今日の学校現場における課題が多様化しているため、インクルーシブ教育や特別支援教育等の実践的な指導能力向上が求められる。また、健康課題の確認や教材研究のためにも、厚生労働省、文部科学省、日本スポーツ振興センター、(公財)日本学校保健会等の公的機関の情報源を

紹介し、その活用を促す必要がある。

所在する京都市の策定する教員育成指標と教職課程科目の授業内容は対応しているが、近隣の他の自治体との対応については今後の課題である。

#### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料 3-1-③-1：「教職課程科目の各授業のシラバス」（Web で検索可能）

[https://syllabus.kyoto-wu.ac.jp/syllabus/campusquare.do?\\_flowExecutionKey=\\_cBAC73D0D-27C3-147A-A6F0-485F8CA51754\\_k4DA1D552-A92E-0988-3CF1-49AADAB5DCF7](https://syllabus.kyoto-wu.ac.jp/syllabus/campusquare.do?_flowExecutionKey=_cBAC73D0D-27C3-147A-A6F0-485F8CA51754_k4DA1D552-A92E-0988-3CF1-49AADAB5DCF7)

- ・資料 3-1-③-2：大学 HP 「教育学専攻教員の教育活動」

<https://www.kyoto-wu.ac.jp/gakubu/faculty/hattatsu/education/news/rhnb30000001io30.html>

- ・資料 3-1-③-3：「京都市教員等の資質の向上に関する指標」（京都市教育委員会 HP）

<https://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/page/0000237129.html>

- ・資料 3-1-③-4：大学 HP #教育学科 News 『幼稚園教育実習説明会を実施しました。』

<https://www.kyoto-wu.ac.jp/gakubu/faculty/education/news/boogco000000ngnk.html>

- ・資料 3-1-③-5：英会話 PG のアンケート結果

<https://forms.office.com/Pages/AnalysisPage.aspx?AnalyzerToken=XvDCKV17Dd1F2n1bNnCSApmCAD3mmGHM&id=t1vaPjmURESRo1NgbnjXc9vdpwNS-tNCu3aqda-PdRVUN11LOEcwOTNVQk1ISjEwTUIyUTVJV11EQS4u>

④ ICT 機器を活用し、情報活用能力を育てる教育への対応が充分可能となるように、「情報通信技術を活用した教育の理論方法に関する科目」や教科指導法科目等を中心に適切な指導が行われている。

#### 〔現状〕

本学では ICT 機器を活用した教育が導入されており、電子資料やデジタル教科書、ノート PC・タブレット端末を用いた授業が行われている。教育方法論や教科指導法科目、演習科目を通じて、学生が ICT を体験的に学ぶ機会が設けられており、情報活用能力の育成が図られている。特にデータサイエンス学科では、プログラミング教育を通じて早期から ICT 環境への適応力を養っている。

#### 〔優れた取組〕

模擬授業や教材作成、アンケート調査、動画提出課題、出前授業、国際交流など、実践的な ICT 活用が各学科で展開されている。教育学科では各教科教育方法関連の授業等を中心に、学生が ICT を活用した模擬授業を行うなど、ICT を積極的に活用されている（資料 3-1-④-1）。また、ICT 機器を活用した保健教育に関する出前授業を学生が行うことによって、学生の「ICT 活用指導力」の向上を目指した取り組みも行っている（資料 3-1-④-2）。

児童学科では京都女子大学親子支援ひろば「ぴっばらん」にて、多様な子ども子育て支援の在り方を学ぶ活動として、対面型式や ICT を活用したオンライン相互交流型式などの活動を行っている。地域子育て支援拠点との協働では、「アウトリーチ&ハイブリッドぴっばらん」として、アウトリーチ（訪問）によって直接親子ふれ合い遊びを行うグループと、大学からオンラインで手遊びを行い相互交流する 2 種類の活動型式を融合している（資料 3-1-④-3）

また、JICA ボランティアとしてケニアで活動している卒業生と協働して、親と離れて暮らすナイロビ・チルドレン・レスキュー・センターの 30 人の子どもたちと、ICT を活用して年齢別の交流

プログラムを英語やスワヒリ語を用いて行っている。(資料 3-1-④-4)

#### 〔改善の方向性・課題〕

教室によって、Wi-Fi 環境に課題があり、接続が悪かったり通信速度が極端に遅くなったりするなど、教室の機器の不備等から十分な ICT 活用ができないことがあり、機器の整備が必要である。

デジタル教科書がインストールされた電子機器を設置するなど、ICT を活用した指導法を学ぶ環境を更に整備できないかを検討することが考えられる。

また、情報分野科目の履修が任意である学科では、学生の習熟度に差が生じていることから、情報分野の受講モデルなどの提示を検討したい。データサイエンス学科では、複数のプログラミング言語を同時に学ぶことによる習熟の浅さが指摘されており、1 回生で学ぶプログラミング言語を絞り、十分活用できるレベルに到達した段階で次のプログラミング言語の学びに移行できるカリキュラムに改善していく必要がある。

#### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料 3-1-④-1：大学 HP 「【発達教育学部】算数科教育方法論～ICT を活用した模擬授業」  
<https://www.kyoto-wu.ac.jp/gakubu/faculty/education/news/boogco000000kuo5.html>
- ・資料 3-1-④-2：大学 HP 「-学長採択プロジェクト始動—ICT 機器を活用した保健教育出前授業」  
<https://www.kyoto-wu.ac.jp/gakubu/faculty/archive/fukushi/topics.html>
- ・資料 3-1-④-3：大学 HP 学科ニュース「アウトリーチ&ハイブリッドぴっぱらん」  
<https://www.kyoto-wu.ac.jp/gakubu/faculty/hattatsu/education/news/boogco0000008d8k.html>
- 資料 3-1-④-4：大学 HP 【発達教育学部】国際ナショナルぴっぱらん  
<https://www.kyoto-wu.ac.jp/gakubu/faculty/hattatsu/education/news/boogco000000oc58.html>

⑤アクティブ・ラーニング（「主体的・対話的で深い学び」）やグループワークを促す工夫により、課題発見や課題解決等の力量を育成している。

#### 〔現状〕

本学では教職課程科目を含む多くの科目で「反転学習」「グループ学習 協同学習／協同学習」「ディスカッション／ディベート」等のアクティブラーニングを取り入れ、「主体的・対話的で深い学びを実現する教育」に対応した授業内容・方法を担保している。卒業までの各セメスターには少人数による演習が必修科目として設けられ、充実したグループワークやアクティブラーニングへの対応がなされている。(資料 3-1-⑤-1)

児童学科では幼稚園教育実習後に少人数のグループに分かれて実習の振り返りを行い、実習での気づきや学びについてディスカッションすることで、自己課題や改善策を明確化し、次の実習で活かすことができるようにしている。(資料 3-1-⑤-2)

#### 〔優れた取組〕

フィールドワークや模擬授業、グループワークなど実践的かつ創造的な学びの機会が提供され、学生の主体性を引き出す工夫がなされている。

英文学科では PBL(Project-based Language Learning)の授業を展開している 2 年生ゼミ

(Research Seminar I)において学生たちが課題を見つけ、自ら取材やインタビューを行い、最後は大学のプロモーションビデオを英語で作成し、オープンキャンパスで公開している。

児童学科では「保育内容演習(各領域)」等で模擬保育を取り入れるなど、実践的な授業が展開されている。「教育実習論」では、作成した指導案を学生同士が相互添削し、実習に活かす努力を行っている。また、実習指導室には、参考図書や保育教材が取り揃えられて学生が参照できるようになっており、合わせてラボラトリー・スタッフに相談・指導を受けることができるようにしている(資料3-1-⑤-3)。

「児童学実践演習」では、グループワークで行事や誕生会を企画・実践することで課題を発見し、その課題解決に向けてグループで協同することで様々な発想や工夫を生みだし、保育・教育現場で活かす総合的な表現方法を身につけることができるようにしている。(資料3-1-⑤-2)

#### 【改善の方向性・課題】

議論に参加する熱量が学生によって異なるため、全員が積極的に参加できる環境作りにも工夫が必要である。FD研修会などを通じて、教員間の情報交換や意見交流を継続的に実施していくことが課題である。

また、学生が有する様々な特性や心身の状態によりグループワークへの参加が困難な場合が生じる。そのようなケースでは演習の展開を工夫するなどの配慮が求められる。

#### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-1-⑤-1:「教育方法論や各教科指導法科目等の各授業のシラバス」

[https://syllabus.kyoto-](https://syllabus.kyoto-wu.ac.jp/syllabus/campusquare.do?_flowExecutionKey=_cBAC73D0D-27C3-147A-A6F0-485F8CA51754_k4DA1D552-A92E-0988-3CF1-49AADAB5DCF7)

[wu.ac.jp/syllabus/campusquare.do?\\_flowExecutionKey=\\_cBAC73D0D-27C3-147A-A6F0-485F8CA51754\\_k4DA1D552-A92E-0988-3CF1-49AADAB5DCF7](https://syllabus.kyoto-wu.ac.jp/syllabus/campusquare.do?_flowExecutionKey=_cBAC73D0D-27C3-147A-A6F0-485F8CA51754_k4DA1D552-A92E-0988-3CF1-49AADAB5DCF7)

- ・資料3-1-⑤-2:教育実習論や教職課程科目の各授業のシラバス (WEBで検索可能)

[https://syllabus.kyoto-](https://syllabus.kyoto-wu.ac.jp/syllabus/campusquare.do?_flowExecutionKey=_cBAC73D0D-27C3-147A-A6F0-485F8CA51754_k4DA1D552-A92E-0988-3CF1-49AADAB5DCF7)

[wu.ac.jp/syllabus/campusquare.do?\\_flowExecutionKey=\\_cBAC73D0D-27C3-147A-A6F0-485F8CA51754\\_k4DA1D552-A92E-0988-3CF1-49AADAB5DCF7](https://syllabus.kyoto-wu.ac.jp/syllabus/campusquare.do?_flowExecutionKey=_cBAC73D0D-27C3-147A-A6F0-485F8CA51754_k4DA1D552-A92E-0988-3CF1-49AADAB5DCF7)

- ・資料3-1-⑤-3:大学HP #教育学科 News『幼稚園教育実習の準備が大詰めです』

<https://www.kyoto-wu.ac.jp/gakubu/faculty/education/news/boogco00000041yv.html>

⑥教職課程シラバスにおいて、各科目の学修内容や評価方法を学生に明確に示している。

#### 【現状】

教職課程科目を含めて、本学ではすべての科目について、シラバスにて副題、授業の到達目標、学位授与の方針との関連、授業の概要、授業計画、授業時間外学習、課題に対するフィードバック、関連分野、教科書、参考書、学生へのメッセージ、当該科目に関連した実務経験の有無、成績評価の方法(評価項目・配分・評価の観点)、京女AL(アクティブラーニングに関する内容)を記載し、学生に明示している。(資料3-1-⑥-1)

#### 【優れた取組】

教職課程のシラバスについては、「シラバス作成要領」に基づいて担当教員が作成し、教職支援センターカリキュラム検討部会にて第三者チェックを行っている。

在学生はポータルサイトにていつでもシラバスを閲覧することができる。

#### 【改善の方向性・課題】

特になし

## &lt;根拠となる資料・データ等&gt;

- ・資料 3-1-⑥-1：シラバス

[https://syllabus.kyoto-wu.ac.jp/syllabus/campusquare.do?\\_flowExecutionKey=\\_cE0AD7285-ED3E-CB15-830E-D1F434F1DCB9\\_k6C902207-D39D-8813-9957-2A7DC4360F19](https://syllabus.kyoto-wu.ac.jp/syllabus/campusquare.do?_flowExecutionKey=_cE0AD7285-ED3E-CB15-830E-D1F434F1DCB9_k6C902207-D39D-8813-9957-2A7DC4360F19)

⑦教育実習を行う上で必要な履修要件を設定し、教育実習を実りあるものとするよう指導を行っている。

## 〔現状〕

教育実習にあたっては、「京都女子大学履修要項」に履修条件を定めている。

教育実習は「京都女子大学履修要項」に定められた先修条件科目を前年度までに修得し、かつ当該年度中に当該免許状取得の所要資格のすべてを充足しうる者について許可している。

また、前年度から実施される教育実習オリエンテーションに必ず出席することとしている。教育実習オリエンテーションでは、教育実習を行うに当たっての心構えや条件、各種手続きについて説明している。(資料 3-1-⑦-1、3-1-⑦-2)

教育実習の事前指導については、「教育実習論」の授業の中で、教育実習の意義と目的、教育実習の内容、教育実習の心得等についての理解を図るとともに、教材研究、学習指導案の作成、指導方法等についての技能の修得を図ることを目的として実施している。(資料 3-1-⑦-3、資料 3-1-⑦-4)

事後指導については、事後指導：教育実習終了後、実習報告書（教育実習日誌）を提出させ、教育実習における成果と課題のふりかえり、さらなる学びに関する指導を目的として実施している。

## 〔優れた取組〕

教育実習にあたっては、「教育実習論」の受講に加えて、学生 1 名につき 1 名の教育実習担当教員がつき、事前・事後指導や実習期間中の指導・相談を行っている。

教育実習担当教員は実習校の指導教諭と打ち合わせを行い、実習期間中に、実習校の指導教諭が実務指導を担当し、大学教員は実習校を巡回して、学生の指導を行っている。

教育実習担当教員が窓口となり、教務課や教職支援センターと連携することで、教育実習中に困りごとが起こった際にすぐに相談できる体制をとっている。

## 〔改善の方向性・課題〕

教育実習を行う前年度から教育実習オリエンテーションを開催し、教育実習を行うに当たっての心構えや条件について説明を行っているが、教育実習開始直前になって、実習を辞退したいという学生や実習を続けられないという学生が一定数いる。

教育実習オリエンテーションの実施方法や内容について検討が必要であるほか、教務課・教育実習指導室・教職支援センター・各学科の教員の早い段階からの情報共有や連携が必要である。

## &lt;根拠となる資料・データ等&gt;

- ・資料 3-1-⑦-1：大学 HP「京都女子大学履修要項」（単位修得要領内に掲載）

<https://www.kyoto-wu.ac.jp/zaigaku/tani.html>

- ・資料 3-1-⑦-2：大学 HP「教職課程ハンドブック」

<https://www.kyoto-wu.ac.jp/career/kyoshoku/publications/index.html>

- ・資料 3-1-⑦-3：「教育実習論」シラバス

[https://syllabus.kyoto-wu.ac.jp/syllabus/campussquare.do?\\_flowExecutionKey=\\_cBAC73D0D-27C3-147A-A6F0-485F8CA51754\\_k4DA1D552-A92E-0988-3CF1-49AADAB5DCF7](https://syllabus.kyoto-wu.ac.jp/syllabus/campussquare.do?_flowExecutionKey=_cBAC73D0D-27C3-147A-A6F0-485F8CA51754_k4DA1D552-A92E-0988-3CF1-49AADAB5DCF7)

- ・資料 3-1-⑦-4：大学 HP 教職支援センター研究紀要（京都女子大学リポジトリ／教職支援センター一年次報告）<https://www.kyoto-wu.ac.jp/career/kyoshoku/publications/index.html>

⑧「履修カルテ」等を用いて、学生の学修状況に応じたきめ細かな教職指導を行い、「教職実践演習」の指導にこの蓄積を活かしている。

#### 【現状】

「教職課程履修記録」への入力を義務付け、それをもとに、年度はじめと4回生の後期時に教職課程履修面談を実施し、学生の学修状況に応じた教職指導を行っている。4回生後期に開講する「教職実践演習」の履修要件として、「教職課程履修記録」の4回生前期までの入力と教職課程履修面談を受けていることを必須としている。毎年前期に実施される教職課程履修面談で得られた情報は京女ポータルポータルポータルに保存され、学科教員全員が閲覧可能である。それらは「教職実践演習」の授業開始までに記録を終え、指導に活かしている。（資料 3-1-⑧-1、3-1-⑧-2）

#### 【優れた取組】

学生のポートフォリオでは各学生の面談管理や学修記録も閲覧可能なため、「教職指導や教職実践演習」にも活用している。学生の目標設定や課題の理解、学生自身がどのように教職課程に取り組んでいるか、これまでの軌跡を振り返り、学生一人一人のニーズに応じた教職課程履修面談を原則対面で実施し、具体的な履修指導や助言などの個別指導を行っている。このように細かくフィードバックの機会を設け、学生個人の内省だけでなく積極的な伸長・改善に繋がるように、「教職課程履修記録」を活用している。「教職実践演習」担当の教員だけでなく、教職課程に関わる全教職員が「教職課程履修記録」を共有し、学生の学修到達度や自己評価や意欲などの状況を把握して指導計画を立てるために活用している。

#### 【改善の方向性・課題】

「教職課程履修記録」に詳細な学修状況を記入する学生が少ないことや、記入の繰り返しの呼びかけを必要とすることが課題であり、学生が主体的に記入し自己を振り返ることができるような工夫が求められる。また、「教職課程履修記録」や学生の状況から、教職課程全体で学修成果と課題を確認し、必要に応じて対応する試みを今後も継続して行う必要がある。「教職課程履修記録」をより学生の指導に生かすための方法等を検討し、一層個々に寄り添ったきめ細やかな指導の実現を目指す。

#### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料 3-1-⑧-1：大学 HP 「京都女子大学の教職課程運営体制等について」  
<https://www.kyoto-wu.ac.jp/career/kyoshoku/kyouin/grd7h10000007ohd-att/grd7h10000007ori.pdf>
- ・資料 3-1-⑧-2：「教職実践演習」シラバス  
[https://syllabus.kyoto-wu.ac.jp/syllabus/campussquare.do?\\_flowExecutionKey=\\_cBAC73D0D-27C3-147A-A6F0-485F8CA51754\\_k4DA1D552-A92E-0988-3CF1-49AADAB5DCF7](https://syllabus.kyoto-wu.ac.jp/syllabus/campussquare.do?_flowExecutionKey=_cBAC73D0D-27C3-147A-A6F0-485F8CA51754_k4DA1D552-A92E-0988-3CF1-49AADAB5DCF7)

## 基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

①取得する教員免許状の特性に応じた実践的指導力を育成する機会を設定している。

### 〔現状〕

「教職実践演習」において、教育実習の振り返りを行うとともに、教職の意義、教員の役割、学校が抱えている諸問題に関する知識と自身の考えを再確認している。また、教員との質疑応答、学生間での討論やロールプレイ等を通じて4年間の教職関連科目の履修によって身に付けた授業を設計し実践する力を強化し、教員としての力量を高め、生徒指導、進路指導、人権教育、特別支援教育、保護者・地域との連携についても理解を深めている。さらにゲストスピーカーの支援を得て、教育現場が求めている教師像やキャリアステージに応じて身に付けるべき資質・能力がどのようなものであるかを考察する機会を与えている。(資料 3-2-①-1)

国文学科と史学科では教科指導法の授業においてグループによる教材研究、模擬授業、全体でのリフレクションという一連の模擬授業研究を行っている。史学科の「教職実践演習」では、それまでの教職課程の集大成として模擬授業を行った後、参加者全員でディスカッションを行い、実践的指導力のさらなる質の向上に努めている。

### 〔優れた取組〕

教職支援センターと学科教員とで協力しながら教員志望学生に対する充実した支援を行うと共に、教育実習の受入れを地域と連携して実施するなどして、実践的指導力の育成を目指した取り組みを行っている(資料 3-2-①-2)。

「教職実践演習」は教員との質疑応答、学生間での討論やロールプレイなど具体的な場面を想定した教育カリキュラムになっている。また、現役の教員をゲストに呼ぶことで、より現場レベルに即した授業の内容になっている。

国文学科では「教職実践演習」の授業内で教員が、学生が取り組んだ卒業論文のテーマを中高校向けの教材として模擬授業を行うことにより、学科の専門性を教職課程にも活かすこと、さらには、大学での学びを就職後にも活かすという意識付けを行っている。

### 〔改善の方向性・課題〕

実践的指導力を育成する機会はゼミ単位や学生有志において行われているものの、在籍する全ての学生に対して必ずしも機会を設けているわけではない。

PBL では基本的にグループワークに基づき学習を行い、最後にプレゼンテーションを行っているが、グループの一部の学生のみが主体的に作業を進め、その他の学生がグループワークに貢献していないことも生じている。こうした場合、学生ひとりひとりの実践的指導力を向上させる機会にはならないため改善策などを考えていく必要がある。教員としての豊かなキャリアに基づく優れた専門的な知見を有する卒業生を迎えることで、教職課程を履修する学生の実践的指導能力をより育成することができると考えられる。今後も、授業におけるゲストスピーカーの講話の回や卒業生との懇話会を持つことによって、そのような機会をできる限り提供できるように努める必要がある。

### <根拠となる資料・データ等>

- ・ 資料 3-2-①-1 : 「教職実践演習(中・高)」 シラバス

[https://syllabus.kyoto-wu.ac.jp/syllabus/campusquare.do?\\_flowExecutionKey=\\_cBAC73D0D-27C3-147A-A6F0-](https://syllabus.kyoto-wu.ac.jp/syllabus/campusquare.do?_flowExecutionKey=_cBAC73D0D-27C3-147A-A6F0-)

[485F8CA51754\\_k4DA1D552-A92E-0988-3CF1-49AADAB5DCF7](https://www.kyoto-wu.ac.jp/nyushi/voice/mssage/rhnb30000001f7oi.html)

- ・資料 3-2-①-2 : 大学 HP「先生方の丁寧なご指導で実践的なスキルを修得」

<https://www.kyoto-wu.ac.jp/nyushi/voice/mssage/rhnb30000001f7oi.html>

②様々な体験活動（介護等体験、ボランティア、インターンシップ等）とその振り返りの機会を設けている。

#### 〔現状〕

理論と実践の往還による学びの機会として、附属小学校、京都女子中学・高等学校における授業補助や教室環境整備などの体験活動の案内や、スクールボランティア、教師塾、教育委員会からのスクールサポーター募集といった、教職支援センターからの案内を授業のはじめや掲示板を通じて学生に周知している。それらの振り返りを教職課程履修面談において実施し、京女ポータル内のポートフォリオに記入するよう指導している学科もある。

#### 〔優れた取組〕

国文学科では、教職課程履修面談の中で必ず様々な体験活動への参加について質問しており、体験学習における心構えや守秘義務などの再確認や振り返りを行ったり、未体験の学生には検討を勧めたりしている。

教育学科では学外でのボランティア活動を積極的に行っている学生が多いので、授業の中で体験談を発表させ意見交換を行う場面を設定している。また、学生が地域と連携して活動することを積極的ないし継続的に行っている。（資料 3-2-②-1）

児童学科では、地域の幼稚園、保育所や児童館などに出向いて、音楽会、造形ワークショップ、人形劇上演などの芸術文化活動に取り組んでおり、教職課程科目の授業や教育実習での学びを通して習得した知識や技能をもとに、参加対象者の子どもの発達を考慮したうえで活動内容の検討、実施計画の作成、練習を重ねて学外での活動に臨む。そして、終了後には、子どもの様子などの記録をまとめ、それをもとに活動内容や援助方法などについて振り返りを行っている。

#### 〔改善の方向性・課題〕

体験学習は正課外の活動であるため、教育学科や児童学科以外の学科では教職課程履修面談を除いて、それに関する振り返りの機会を設定できていない。様々な体験活動に関する振り返りや意見交換の機会を学科内の全教員で共有できていない点も課題として挙げられる。今後も、教職課程履修面談では、体験学習における心構えや守秘義務などの再確認や振り返りを意識的に行う必要がある。

また、学生によっては体験活動を行う場を獲得出来ていない場合もあるため、教員からの紹介や検索方法の指導等が必要な場合もある。

#### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料 3-2-②-1 : 大学 HP「地域連携活動の一環として東山警察署主催の「年末交通安全イベント」に参加しました」

<https://www.kyoto-wu.ac.jp/gakubu/faculty/hattatsu/education/news/boogco000000jiqp.html>

③地域の子どもの実態や学校における教育実践の最新の事情について学生が理解する機会を設けている。

### 〔現状〕

本学の教職支援センターでは、現職の教員である本学の卒業生や、教員採用試験に合格した4回生の先輩を招いて、教育現場の様子や試験内容・勉強方法などを聞く懇談会を実施している。また、各教育委員会が開催している教師塾の入塾受付期間前には、教育委員会担当者を招いて学内説明会を開催している。また、児童生徒への接し方や指導の仕方を学ぶことができるように、学生ボランティアを紹介している。

### 〔優れた取組〕

実習協力校への連絡・訪問・授業観察による教育実習巡回指導では、現場の課題等の情報を教えて頂くこともあり、実習協力校と大学が協力して実習生の指導の充実に努めている。

教育学科では、教科における理論学習において事例を多く取り入れた講義になるよう工夫がなされている。(資料 3-2-③-1) また、学園内の京都幼稚園を学生が訪問し、製作活動を通して幼児の実態について学ぶ取り組みもなされている(資料 3-2-③-2、3-2-③-3)。さらに、乳幼児のためのコンサートを学内で開催し、学生の学びと連動した地域貢献活動も実施している(資料 3-2-③-4、3-2-③-5)。

児童学科では、選択科目ではあるが、3回生の授業の一部で隣接する京都幼稚園で幼児の行動観察を行う機会が設けられている。また、ゼミ単位では、人形劇や音楽隊の公演、造形活動のワークショップ、親子支援活動などが行われており、地域の子どもや保護者と関わることで、地域の子どもの実態を知る機会が設けられている(資料 3-2-③-6、資料 3-2-③-7)。また、教育実践の最新の事情については、児童学科に届いた省庁・地方自治体からの通知、各種幼児教育団体から届いた案内などは、適宜、学生対象の掲示板等に掲示して周知を図っている。加えて、各教員が情報を入手した教育実践の最新の事情については、それぞれの授業において、学生に伝達する機会を設けている。

### 〔改善の方向性・課題〕

地域の子どもの実態を知る機会がゼミ単位や学生有志において行われているものの、教職課程を履修する全ての学生に対して必ずしも機会を設けているわけではないという点が課題である。授業におけるゲストスピーカーの講話の回や卒業生との懇話会を持つことによって、地域の子どもの実態や学校における教育実践の最新の事情について学生が理解する機会をできる限り提供できるように努める必要がある。

### <根拠となる資料・データ等>

- ・ 資料 3-2-③-1 : 大学 HP 「ゼミ合宿での小学校体験」  
<https://www.kyoto-wu.ac.jp/gakubu/faculty/education/news/boogco000000cife.html>
- ・ 資料 3-2-③-2 : 「京都女子大学辻誠先生・触れ合い遊び」の記事 (京都幼稚園 HP)  
<https://kyoto-kindergarten.ed.jp/linkage/%E4%BA%AC%E9%83%BD%E5%A5%B3%E5%AD%90%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E8%BE%BB%E8%AA%A0%E5%85%88%E7%94%9F%E3%83%BB%E8%A7%A6%E3%82%8C%E5%90%88%E3%81%84%E9%81%8A%E3%81%B3/>
- ・ 資料 3-2-③-3 : 「京都女子大学 辻誠先生・「タケコプターを作って遊ぼう」」(京都幼稚園 HP)  
<https://kyoto-kindergarten.ed.jp/linkage/%E4%BA%AC%E9%83%BD%E5%A5%B3%E5%AD%90%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E3%80%80%E8%BE%BB%E8%AA%A0%E5%85%88%E7%94%9F%E3%83%BB%E3%80%8C%E3%82%BF%E3%82%B1%E3%82%B3%E3%83%97%E3%82%BF%>

[E3%83%BC%E3%82%92%E4%BD%9C%E3%81%A3/](https://www.kyoto-wu.ac.jp/gakubu/faculty/hattatsu/education/news/boogco0000009knf.html)

- ・資料 3-2-③-4：大学 HP「乳幼児のための京女こどもコンサートを開催しました！」  
<https://www.kyoto-wu.ac.jp/gakubu/faculty/hattatsu/education/news/boogco0000009knf.html>
- ・資料 3-2-③-5：Yahoo!ニュース記事「【京都市東山区】泣いてもかましまへん 京女の大学と幼稚園が乳幼児と保護者 50 組をコンサートに無料招待」（2024 年 7 月 18 日）  
<https://news.yahoo.co.jp/expert/articles/de027c62f8e76de7987a5dc71bf1d5d9b519e480>
- ・資料 3-2-③-6：大学 HP『アウトリーチ & ハイブリッド ぴっばらん（瀬々倉先生）』  
<https://www.kyoto-wu.ac.jp/gakubu/faculty/education/news/boogco0000008d8k.html>
- ・資料 3-2-③-7：第 44 回京都矯正展 ワクワク木育キャラバン（京都女子大学）  
<https://www.moj.go.jp/content/001425706.pdf>

④大学ないし教職課程センター等と教育委員会等との組織的な連携協力体制の構築を図っている。

#### 〔現状〕

京都地区の大学の教職課程に関する事項について連絡・研究・協議するとともに、教育実習の適性、円滑な実施を図ることを目的として設置された京都地区大学教職課程協議会に加盟している。京都地区大学教職課程協議会では、京都市立学校における教育実習について、京都市教育委員会と反省会を実施している。

また、教職支援センターでは年間を通じて、学生の個別相談・指導、学生ボランティアの紹介、各自治体教育委員会担当者を招いての教員採用選考試験説明会、教師塾説明会を開催している。その際、各自治体担当者や採用選考試験や学生の傾向、動向等の情報交換を行っている。（資料 3-2-④-1）

#### 〔優れた取組〕

各自治体教育委員会担当者を招いての教員採用選考試験説明会、教師塾説明会の開催をはじめとし、大学として様々な自治体と連携協定を締結しているほか、学生ボランティア等でも教育委員会と連携を深めている。

#### 〔改善の方向性・課題〕

学生ボランティアや各自治体の教員採用選考試験説明会、教師塾説明会への参加者が減少傾向にあるため、学生への周知方法や実施方法等の検討が必要である。

#### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料 3-2-④-1 大学 HP：教職支援センター研究紀要（教職支援センター年次報告）  
<https://www.kyoto-wu.ac.jp/career/kyoshoku/publications/index.html>

⑤教職課程センター等と教育実習協力校とが教育実習や様々な体験活動の充実を図るために連携を図っている。

#### 〔現状〕

教育実習協力校へは、教育実習前に教育実習担当教員が電話連絡のうえ、教育実習期間中に原則実習校・園を訪問し、現場の課題や実習生の実習状況についての情報交換をするとともに、実習生の不安や悩みを聞き取ったり授業・保育観察に基づくアドバイスを行ったりすることで、実習協力校・園と大学が協力して実習生の指導の充実に努めている。

また、本学が加盟している京都地区大学教職課程協議会では毎年 1 回教育実習反省会を開催

し、教育実習の反省と諸問題について協議を行っている。その際、京都府公立学校を対象に実施した教育実習アンケート結果をもとに、課程別分科会でも協議・意見交換を行っている。(資料 3-2-⑤-1)

この京都地区大学教職課程協議会加盟大学、京都市立中学校・高等学校の校長、京都市教育委員会で構成されている京都市教員養成連絡協議会では、教育実習受け入れ方針や教育実習における運営上の改善点等について協議を行っている。

#### 【優れた取組】

教育実習期間中の巡回指導訪問時の実習校・園との情報交換や、京都地区大学教職課程協議会及び京都市教員養成連絡協議会への参画を通じた連携により、教育実習の充実を図っている。

#### 【改善の方向性・課題】

教育実習期間中に学生と実習校・園の間で問題やトラブルが発生した際は、教育実習担当教員を中心に、各学科・教務課・教職支援センターにて協議のうえ、実習校・園と連携して対応にあたっている。

今後は障がいのある学生の教育実習における合理的配慮に関する対応等も増えることが予想されるため、学内の体制を整えるとともに、教育実習協力校や教育委員会とのさらなる連携が必要となる。

#### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料 3-2-⑤-1：一般社団法人全国私立大学教職課程協会 HP  
<https://www.zenshikyo.org/activity/kyoto.html>

### Ⅲ. 総合評価（全体を通じた自己評価）

本学ではこれまで、教職支援センターを中心に、各学科の教員養成に対する理念の設定や教職課程履修面談を実施し、毎年度、その成果や課題を自己点検・評価として実施することを通して教職課程を運営してきた。そうしたなかで、特に今回の令和6（2024）年度の自己点検・評価に際しては、従来の検討方法を抜本的に見直し、各学科での検討をより充実して実施することによって、自己点検・評価を通じた教職課程運営の一層の充実を図ることを目指した。

その結果、各学科における教職課程運営の成果と課題がこれまで以上に明瞭となり、そうした知見を集約して整理・検討することによって、本学の教職課程の今後の在り方に関してさまざまな示唆を得ることができた。ここでは、今回の自己点検・評価を通して見出された本学の教職課程の特色のなかで、特に顕著だと考えられる4つを取り上げる。

1つめは、学科の特性（固有性）を活かした教員養成の取り組みが展開されている点である。文献閲覧のアクセシビリティを高めることによって模擬授業や授業検討会を促進する環境の整備（国文学科）や、授業準備やプレゼンテーション準備が可能となるような環境（ICT設備が充実した教室や学科独自のカフェテリアなど）の整備（データサイエンス学部）、附属小学校や京都幼稚園における授業観察の実施や小学校・大学の両教職員が共同して行う教育実習反省会の実施（教育学科）などの取り組みに代表されるように、本学では、学科において展開されている専門教育の強みが教員養成課程の運営に対しても存分に活かされていると言える。

2つめは、教職課程カリキュラムの編成と実施が充実している点である。この特色を示すものとして、例えば、教職実践演習を受講している学生に対して、教員としての使命感と児童生徒への愛情を深め、教師としての資質・能力を向上させる意欲を育むとともに、児童生徒が抱える諸課題について理解し、他者と協働して課題解決に取り組む資質・能力を身に付けることができているかを評価する取り組み（教育学科）があげられる。また、縦軸に児童学の専門科目を7つのカテゴリー（「児童学」「児童の発達」「児童の保健」「児童の文化」「児童の表現」「保育・教育」「社会教育」）、横軸に学年を追った学びの流れ（「1学年：保育・教育に関する基礎と、児童学の4領域の基礎を学ぶ」「2学年：専門科目の学習を通し、子どもや保育を理解する」「3学年：これまでの学びを総合的化し、子どもや子どもの育ちを多面的に考える力を育てる」「4学年：卒業研究に取り組む」といったカリキュラムツリーを設定し、児童学を基盤とした系統的な幼稚園教諭養成課程の学びをわかりやすく可視化している取り組み（児童学科）も、教職課程カリキュラムの編成と実施が充実している典型的な一例であると言えよう。

3つ目の特色は、各学科において、教職課程におけるICT活用指導スキルの習得の機会がこれまで以上に充実した点である。報告書でも説明されているように、昨年度は、学生によるICTを活用した模擬授業や出前授業の実施をはじめ、教材作成、アンケート調査、動画提出課題、国際交流、さらには、オンラインによる相互交流で大学と地域が協働するなど、実践的なICT活用が各学科において積極的に展開され、「ICT活用指導力」の向上を目指した取り組みが散見された。こうした活動は、今後さらに充実・発展する可能性を備えていると捉えられる。

最後に4つめの特色は、学生のニーズや適性に基づく組織的なキャリア支援が展開されている点である。本学の教職支援センターが中心となって、進路相談や教員採用選考試験対策、教職応援セミナーといった数々の講座の実施に留まらず、教職支援センター特定教授や教職カウンセラーのスタッフが、学生による随時の相談等に対して丁寧かつきめ細かな指導を実施してきた。特に令和6年度は、本報告書でも記されていたように、相談利用者数が前年度に比べて延べ人数・

実人数ともに増加したという事実が顕著な成果として現れていると言える。

ただし、その一方で、前回の自己点検・評価でも言及していた教職支援センターの利用に対する効果測定や教職課程履修面談の実施に伴う効果測定が未だ十分ではない点など、等閑視できない課題も少なくない。ICT 活用指導力の育成をめぐる取り組みに関しても、確かに令和 6 年度で充実した取り組みの展開が確認できたものの、時代の状況に応じたより一層充実した取り組みが求められるところであろう。とりわけ、国内外の教員養成の動向を見え据えながら質の高い丁寧な教職課程を安定して実施・運営するためには、専任教員一人ひとりが責任感をもって授業等を担当し、授業内外の学生支援も視野に入れた体制の整備が肝要となる。同時に、そうした教職課程の体制を維持し充実した展開を可能とするようなマンパワーの確保（事務職員の確保など）も欠かせない。

さらには、前回の自己点検・評価の際にも指摘されていたように、教員採用試験の早期化への対応も急務である。すでに本学でも、学部 3 年次より教員採用試験を受験する学生が一定数存在しており、教職支援センターを中心に、採用試験の実施時期に伴う教育実習体制の再検討や早期試験への対策等の措置が求められているところである。

以上のような成果と課題を踏まえた具体的な取り組みの企画と実施が、次年度（令和 7 年度）における本学の教職課程運営に対して望まれているといえるだろう。

#### IV 「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス

本学では、次ページ以降に掲載する「令和 6 年度 教職課程自己点検・評価の実施方針」を策定し、第 1 プロセスから第 4 プロセスの 4 つのプロセスにそって点検・評価を実施した。

最終的な教職課程自己点検・評価報告書については、教職支援センター運営委員会、学修支援専門部会、執行部会及び部局長会における審議の後、大学 HP にて公表することとする。

大学院専修免許課程自己点検・評価については、設置の状況により、学部教職課程に準じた自己点検・評価活動が求められていることから、各専攻において「基準領域・基準項目」ごとに〔現状〕〔優れた取組〕〔改善の方向性・課題〕を取りまとめ、令和 7 年度中を目途として自己点検・評価報告書を作成する。

2024.12.24 教職支援センター運営委員会

2024.12.25 学修支援専門部会

2025.1.8 執行部会

2025.1.9 部局長会

2025.1.21 教授会（報告）

## 令和6年度 教職課程自己点検・評価の実施方針

### 1. 教職課程自己点検・評価の目的

教育職員免許法施行規則改正に伴い、令和4年度から教職課程自己点検・評価が義務化されました。教職課程自己点検・評価は、教育職員免許法施行規則第22条の7及び第22条の8に規定されており、「教職課程認定を受けている大学が、その教育研究等の水準の向上や活性化に努めるとともに、社会的責任を果たしていくため、大学の理念・目的に照らして教育活動等の状況について自己点検し、現状を的確に把握・認識した上で、その結果を踏まえ、優れている点や改善を要する点などの自己評価を行う」ことを目的としています。

### 2. 教職課程自己点検・評価の進め方

教職課程自己点検・評価は、以下の4つのプロセスにそって実施します。

- 第1プロセス：教職課程自己点検・評価の実施決定・周知（教職支援センター運営委員会→学修支援専門部会→執行部会→部局長会）
- 第2プロセス：各学科による教職課程自己点検・評価の進め方の検討・協議，教職支援センター等との実施手順の確認
- 第3プロセス：教職課程自己点検・評価の実施及び分析と新たなアクション・プランの策定
- 第4プロセス：「教職課程自己点検・評価報告書」の作成と協議による確定（教職支援センター運営委員会→学修支援専門部会→執行部会→部局長会），HP等への公表，全国私立大学教職課程協会への提出

#### (1) 第1プロセス

学内の教職課程の自己点検・評価を行うことを組織決定するとともに、自己点検・評価の実施方針を決定します。その方針には、「自己点検・評価の目標，実施組織，実施内容，対象とする領域・項目，実施期間，『教職課程自己点検・評価報告書』の様式」が含まれます。決定事項は、教授会において、報告事項として周知を図ります。

- ①12月24日 教職支援センター運営委員会→学修支援専門部会→執行部会→部局長会を経て、自己点検・評価の実施方針を決定（1月9日の部局長会後，1月21日の教授会にて報告）

\* 自己点検・評価の目標の共有

\* 実施組織：各学科の自己点検・評価を基本とする

(発達教育学部および心理共生学部については、令和 7 年度の教職課程自己点検・評価までは、旧学部の学科を単位とする)

\*実施内容：【学科】「基準領域・基準項目」の自己点検・評価と「教職課程自己点検・評価学科報告書（以下、学科報告書）」の作成

【教職支援センター】学科報告書の再編集と「教職課程の現況及び特色」「総合評価（全体を通じた自己評価）」『教職課程自己点検・評価報告書』作成プロセス」の記入

\*自己点検・評価の項目：

- 教職課程の特色
- 基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み
  - 基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標の共有
  - 基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫
- 基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援
  - 基準項目 2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成
  - 基準項目 2-2 教職へのキャリア支援
- 基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム
  - 基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施
  - 基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携
- 総合評価（全体を通じた自己評価）
- 「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス

\*実施期間：令和 7 年 3 月 31 日までに、教職支援センター運営委員会チーム内の「教職課程自己点検・評価」チャンネルにある「学科報告書」フォルダに提出

\*「教職課程自己点検・評価報告書」の様式：記入フォーム 2（別途資料参照）

- ②1月 21 日 教職課程自己点検・評価の実施について、教授会において報告・周知  
教職課程 WG の立ち上げの承認と教職支援センター運営委員を中心とするメンバーの選出
- ③1月 21 日 学科報告書の作成マニュアルと学科別の記入テンプレートの配布

## (2) 第 2 プロセス

各学科の教職課程 WG は、教職課程自己点検・評価の実施方針の決定を受けて、教職課程自己点検・評価の進め方について検討します。

### 第 1 回教職課程 WG の開催（2 月中）

\*教職課程自己点検・評価の内容・方法の確認

\*学科・専攻内の役割分担

- ・「大学全体」「学科・専攻」「授業」がどのように関連し合う中で、本学の教職課程が運営されているかを理解していただくために、できる限り「基準領域・基準項目」の全ての「取り組み観点例」について確認（確認内容については、「学科報告書の作成マニュアル」を参照）

- ・学科報告書の作成は、自己点検・評価の項目の内、「基準領域・基準項目」に限定して、以下に指定する「取り組み観点例」についてのみ記入（記入内容については、「学科報告書の記入例」を参照）

\*3月31日の提出期限までのスケジュール調整

\*自己点検に必要なデータの確認→新たに必要データは教務課を通じてIRに依頼

【学科報告書において記入が必要な「取り組み観点例」】

基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

<取り組み観点例>

- ①教職課程教育の目的・目標を、「卒業認定・学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針」等を踏まえて設定し、育成を目指す教師像とともに学生に周知している。
- ②育成を目指す教師像の実現に向けて、関係教職員が教職課程の目的・目標を共有し、教職課程教育を計画的に実施している。

基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫

<取り組み観点例>

- ③教職課程教育を行う上での施設・設備が整備され、デジタル教科書を用いた教育指導に対応することも可能となっている。
- ④教職課程の質的向上のために、授業評価アンケートの活用を始め、FD（授業・カリキュラム改善、教育・学生支援体制の整備等）やSD（教職員の能力開発）の取り組みを展開している。

基準項目 2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

<取り組み観点例>

- ①当該教職課程で学ぶにふさわしい学生像を「入学者受け入れの方針」等を踏まえて、設定し、学生の募集や選考ないしガイダンス等を実施している。
- ④「履修カルテ」を活用する等、学生の適性や資質に応じた教職指導が行われている。

基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

<取り組み観点例>

- ④教員免許状取得件数、教員就職率を高める工夫をしている。
- ⑤キャリア支援を充実させる観点から、教職に就いている卒業生や地域の多様な人材等との連携を図っている。

（発達教育学部の学科のみ必須、他学科も該当事例があれば記入）

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

<取り組み観点例>

- ①建学の精神を具現する特色ある教職課程カリキュラムを編成・実施している。
- ②学科等の目的を踏まえ、教職課程科目相互とそれ以外の学科科目等との系統性の確保を図りながら、コアカリキュラムに対応する教職課程カリキュラムを編成している。
- ③教員育成指標を踏まえる等、今日の学校教育に対応する内容上の工夫がなされている。
- ④ICT機器を活用し、情報活用能力を育てる教育への対応が充分可能となるように、「情報通信技術を活用した教育の理論方法に関する科目」や教科指導法科目等を中心に適切な指導が行われている。
- ⑤アクティブ・ラーニング（「主体的・対話的で深い学び」）やグループワークを促す工夫によ

り，課題発見や課題解決等の力量を育成している。

- ⑧「履修カルテ」等を用いて，学生の学修状況に応じたきめ細かな教職指導を行い，「教職実践演習」の指導にこの蓄積を活かしている。

### 基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

<取り組み観点例>

- ①取得する教員免許状の特性に応じた実践的指導力を育成する機会を設定している。
- ②様々な体験活動（介護等体験，ボランティア，インターンシップ等）とその振り返りの機会を設けている。
- （発達教育学部の学科のみ必須，他学科も該当事例があれば記入）
- ③地域の子どもの実態や学校における教育実践の最新の事情について学生が理解する機会を設けている。

### (3) 第3プロセス

各学科の教職課程WGのメンバーを中心に，学科単位で対象項目の点検・評価活動を行います。単に学科・専攻のレベルでの取組状況のみを自己点検・評価の対象とするだけでなく，学科を横断する大学全体のレベルでの取組状況や，学科・専攻が組織としてその改善に主体的に関与する授業科目のレベルでの自己点検・評価も対象となっています。したがって，必要に応じて，教職課程科目の授業担当者との連携をとりながら進めてください。分析内容としては，各基準項目における各学科の教職課程の「個性・特色」や「直面している課題」をリフレクションすることが重要です。そのため，記入が必要な「取り組み観点例」ごとに，「現状」「優れた取組」「改善の方向性・課題」に分けて，学科報告書に記入してください。

#### ①役割分担に基づく点検・評価活動（2月～3月）

- \* 「基準領域・基準項目」の全て「取り組み観点例」についての点検・評価
- \* 「基本基準・基準項目」の内，記入が必要な「取り組み観点例」ごとの「現状」「優れた取組」「改善の方向性・課題」の抽出

#### ②第2回教職課程WGの開催（3月中）

- \* 教職課程WG内での分担した点検・評価結果の共有
- \* 記入フォームに基づき，学科報告書の作成
  - ・ 書体は原則として明朝体で，文字は10.5ポイント
  - ・ 「基準領域」当たり2,000字（40字×50行）程度が目安となりますので，記入が必要な「取り組み観点例」ごとの「現状」「優れた取組」「改善の方向性・課題」については，各100～150字程度を目安に記入
  - ・ 根拠となる資料・データ等とその資料番号の箇条書きリスト  
（公開されたHP等のURLの記載も可能，「基準項目」ごとに枝番を付ける形式  
ex. 基準項目1-1の根拠となる資料・データの場合，「資料1-1-1，資料1-1-2，・・・」）

#### ③3月中 学科会議またはメール会議で，各学科の報告書を審議

#### ④修正後，期限（3月31日）までに，教職支援センター運営委員会チーム→「教職課程自己点検・評価」チャンネル→「学科報告書」フォルダの順に進んで提出

教職支援センターでは、教職課程カリキュラム検討部会委員を中心にして、学科報告書をもとに、項目ごとに各学科の状況を連記して再編集するとともに、自己点検・評価の項目の内、以下の項目についても自己点検・評価を行い、最終的な報告書を作成します（4月中）。その過程において、年次計画や中・長期計画の一部をなすものとして、教職課程の改善・向上にむけたアクション・プランを検討・策定します。また、記入内容の重複や分量等について、大学全体としてのバランスや統一性を確保するため、提出後に修正を依頼する場合があります。

#### 【教職支援センターにおいて記入する項目】

- 「教職課程の現況及び特色」
- 「基準領域ごとの教職課程自己点検・評価」のうち学部が担当しない観点例
- 「総合評価（全体を通じた自己評価）」
- 「『教職課程自己点検・評価報告書』作成プロセス」

#### (4) 第4プロセス

学科報告書を集約・点検し、大学としての全体評価を加えて「教職課程自己点検・評価報告書」を完成させます（5月上旬）。「教職支援センター運営委員会→学修支援専門部会→執行部会→部局長会」における承認の後、HPにおいて「教職課程自己点検・評価報告書」を公表します。

- ①教職課程カリキュラム検討部会委員による学科報告書を集約・点検（4月中）
- ②教職課程カリキュラム検討部会委員による大学としての全体評価の作成（5月上旬）
- ③教職支援センター運営委員会における審議，必要に応じて修正，承認（5月中旬）
- ④学修支援専門部会における審議，必要に応じて修正，承認（5月下旬）
- ⑤「執行部会→部局長会」における審議必要に応じて修正，承認（6月上旬）
- ⑥HPで「教職課程自己点検・評価報告書」を公表（6月中）
- ⑦全国私立大学教職課程協会への提出（6月中）

### 3. 大学院専修免許課程の自己点検・評価について

大学院専修免許課程自己点検・評価については、設置の状況により、学部教職課程に準じた記載をすることが求められています。そのため、令和6年度大学院専修免許課程自己点検・評価報告書の作成は不要ですが、令和7年度以降は実施する必要があります。

そこで、令和6年度中に、各専攻で自己点検・評価が必要な「基準領域・基準項目」の「取り組み観点例」を指定するので、令和7年度の4・5月に、各専攻において大学院専修免許課程自己点検・評価としての確認を行い、不足している取り組みは令和7年度中に取り組み、令和7年度大学院専修免許課程自己点検・評価報告書作成に向けた準備を行ってください。

したがって、令和7年度は、大学院専修免許課程についても自己点検・評価を行うことを組織決定するとともに、自己点検・評価の実施方針を決定し、各専攻に「専攻報告書」の作成を依頼することになります。